

県営ほ場整備事業（粟津川地区）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

珠洲市

粟津カンジャバタケ遺跡

2006

石川県教育委員会

(財)石川県埋蔵文化財センター

あわづ
栗津カンジャバタケ遺跡

2006

石川県教育委員会
(財)石川県埋蔵文化財センター

例 言

- 1 本書は粟津カンジヤバタケ遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は珠洲市三崎町粟津地内である。
- 3 調査原因は県営ほ場整備事業（粟津川地区）であり、同事業を所管する石川県農林水産部農業基盤整備課が石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。
- 4 調査は(財)石川県埋蔵文化財センターが石川県教育委員会から委託を受けて平成15(2003)年度から平成17(2005)年度にかけて実施した。業務内容は現地調査・出土品整理・報告書刊行である。
- 5 調査に係る費用は石川県農林水産部農業基盤整備課と、文化庁の補助を受けた石川県教育委員会が負担した。
- 6 現地調査は平成15(2003)年度及び平成16(2004)年度に実施した。期間・面積・担当課・担当者(当時)は下記のとおりである。
 - (1)平成15(2003)年度
 - 期 間 平成15(2003)年10月14日～同年11月7日
 - 面 積 200㎡
 - 担当課 調査部調査第2課
 - 担当者 本田秀生(調査専門員)、谷内明央(主事)
 - (2)平成16(2004)年度
 - 期 間 平成16(2004)年4月27日～同年5月31日
 - 面 積 580㎡
 - 担当課 調査部調査第2課
 - 担当者 金山哲哉(主任主事)、和田龍介(主事)、安中哲徳(主事)
- 7 出土品整理は平成17(2005)年度に実施し、企画部整理課が担当した。
- 8 報告書刊行は平成17(2005)年度に実施し、調査部調査第2課が担当した。執筆分担は下記のとおりである。編集は安中哲徳(調査部調査第2課主任主事)が行った。
 - 第1章：谷内明央(調査部調査第2課主事)
 - 第2章：谷内明央、稲垣淳平(調査部調査第2課嘱託)
 - 第3章：谷内明央
 - 第4章 第1節：安中哲徳、谷内明央
 - 第4章 第2節：森由佳(調査部調査第2課嘱託)
 - 第5章：谷内明央
- 9 調査には下記の機関、個人の協力を得た。

石川県農林水産部農業基盤整備課、大藤雅男、大安尚寿、奥能登農林総合事務所(旧珠洲農林総合事務所)、珠洲市教育委員会、平田天秋(五十音順、敬称略)
- 10 調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。
- 11 本書についての凡例は下記のとおりである。
 - (1)方位は磁北である。
 - (2)水平基準は海拔高であり、T.P.(東京湾平均海拔高)による。
 - (3)出土遺物番号は挿図と写真で対応する。

目 次

第1章 調査に至る経緯と経過	1
第2章 遺跡の位置と環境	3
第3章 調査の概要	5
第4章 遺構と遺物	7
第1節 遺構	7
第2節 遺物	17
第5章 まとめ	27

写真図版

報告書抄録

挿 図 目 次

第1図 調査区位置図 (S = 1 / 2,000、S = 1 / 6,000)	2	第10図 平成16年度調査区平面図・北壁土層断面図(4) (S = 1 / 60)	13
第2図 遺跡の位置図	2	第11図 平成16年度調査区平面図・北壁土層断面図(5) (S = 1 / 60)	14
第3図 周辺の遺跡 (S = 1 / 25,000)	4	第12図 遺構断面図 (S = 1 / 40)	16
第4図 調査区割図 (S = 1 / 240)	6	第13図 平成15・16年度調査区出土遺物(1) (S = 1 / 3)	19
第5図 平成15年度調査区平面図・北壁土層断面図(1) (S = 1 / 60)	8	第14図 平成15・16年度調査区出土遺物(2) (S = 1 / 3)	20
第6図 平成15年度調査区平面図・北壁土層断面図(2) ・東壁土層断面図 (S = 1 / 60)	9	第15図 平成15・16年度調査区出土遺物(3) (S = 1 / 3)	21
第7図 平成16年度調査区平面図・北壁土層断面図(1) (S = 1 / 60)	10	第16図 昭和50年度調査区出土遺物(1) (S = 1 / 3)	22
第8図 平成16年度調査区平面図・北壁土層断面図(2) (S = 1 / 60)	11	第17図 昭和50年度調査区出土遺物(2) (S = 1 / 3)	23
第9図 平成16年度調査区平面図・北壁土層断面図(3) (S = 1 / 60)	12	第18図 昭和50年度調査区出土遺物(3) (S = 1 / 3)	24

表 目 次

第1表 平成15・16年度出土土器観察表	25	第3表 昭和50年度出土土器観察表	25
第2表 昭和50年度、平成14・16年度出土土製品・ 石製品観察表	25		

図版目次

図版 1	平成15年度調査区①	図版11	平成16年度調査区⑤
図版 2	平成15年度調査区②	図版12	平成16年度調査区⑥
図版 3	平成15年度調査区③	図版13	平成16年度調査区⑦
図版 4	平成15年度調査区④	図版14	平成16年度調査区⑧
図版 5	平成15年度調査区⑤	図版15	出土遺物①
図版 6	平成15年度調査区⑥	図版16	出土遺物②
図版 7	平成16年度調査区①	図版17	出土遺物③
図版 8	平成16年度調査区②	図版18	出土遺物④
図版 9	平成16年度調査区③	図版19	出土遺物⑤
図版10	平成16年度調査区④	図版20	出土遺物⑥

第1章 調査に至る経緯と経過

調査の経緯 県農林水産部農業基盤整備課（旧農地整備課。以下、農業基盤整備課）は農地の生産性を向上させるために、農地・用排水路・農道等の整備を一体的に行う、ほ場整備事業を実施している。一方、県教育委員会文化財課（以下、文化財課）は開発事業と埋蔵文化財保護との調整を図るため、事前に事業内容の照会を受けている。農業基盤整備課は珠洲市三崎町栗津地内に、ほ場整備事業を計画した。しかし工区内には周知の埋蔵文化財包蔵地である栗津カンジャバタケ遺跡が存在していた。事業内容の照会を受けた文化財課は埋蔵文化財の保護が図られるよう設計の見直しを農業基盤整備課に要請し、双方協議の結果、工事の影響が遺跡に及ぶ箇所を発掘調査対象とすることで合意がなされた。農業基盤整備課は文化財課に発掘調査を依頼し、文化財課は(財)石川県埋蔵文化財センター（以下、埋文）に発掘調査を委託した。調査は調査部調査第2課が担当した。

調査の経過 平成15年10月9日に奥能登農林総合事務所（旧珠洲農林総合事務所。以下、農林）・文化財課・埋文との間で現地協議が行われた。農林と地元との調整が難航した結果、調査着手が遅れ、依頼面積780㎡のうち200㎡を調査し、残りは来年度に調査することとなった。10月14日に表土除去を行い、16日から作業員が調査に参加した。遺構検出の結果、古代の土坑と中世の溝を確認した。小穴を多数検出したが柱穴等の証拠を得るには至らなかった。また栗津川沿いの調査区南半は旧栗津川の流路であった。狭い部分であるが検出面として捉えた層からは弥生土器が出土しており、トレンチを入れた結果、検出面と同質の粗砂層が厚く堆積していた。土は粗砂質でしまりががないため、遺構検出・掘削は予想以上に進捗したが、写真撮影で清掃するたびに上端が削られ壁面も崩落しやすい状況であり、完掘した遺構については早めに実測しなければならなかった。21日に遺構掘削、27日に写真撮影、28日に実測が完了した。調査区東端の立木3本については、元地権者の要望で調査区内外の境に移植した。その作業に係る立会いと器材撤収を11月7日に行った。

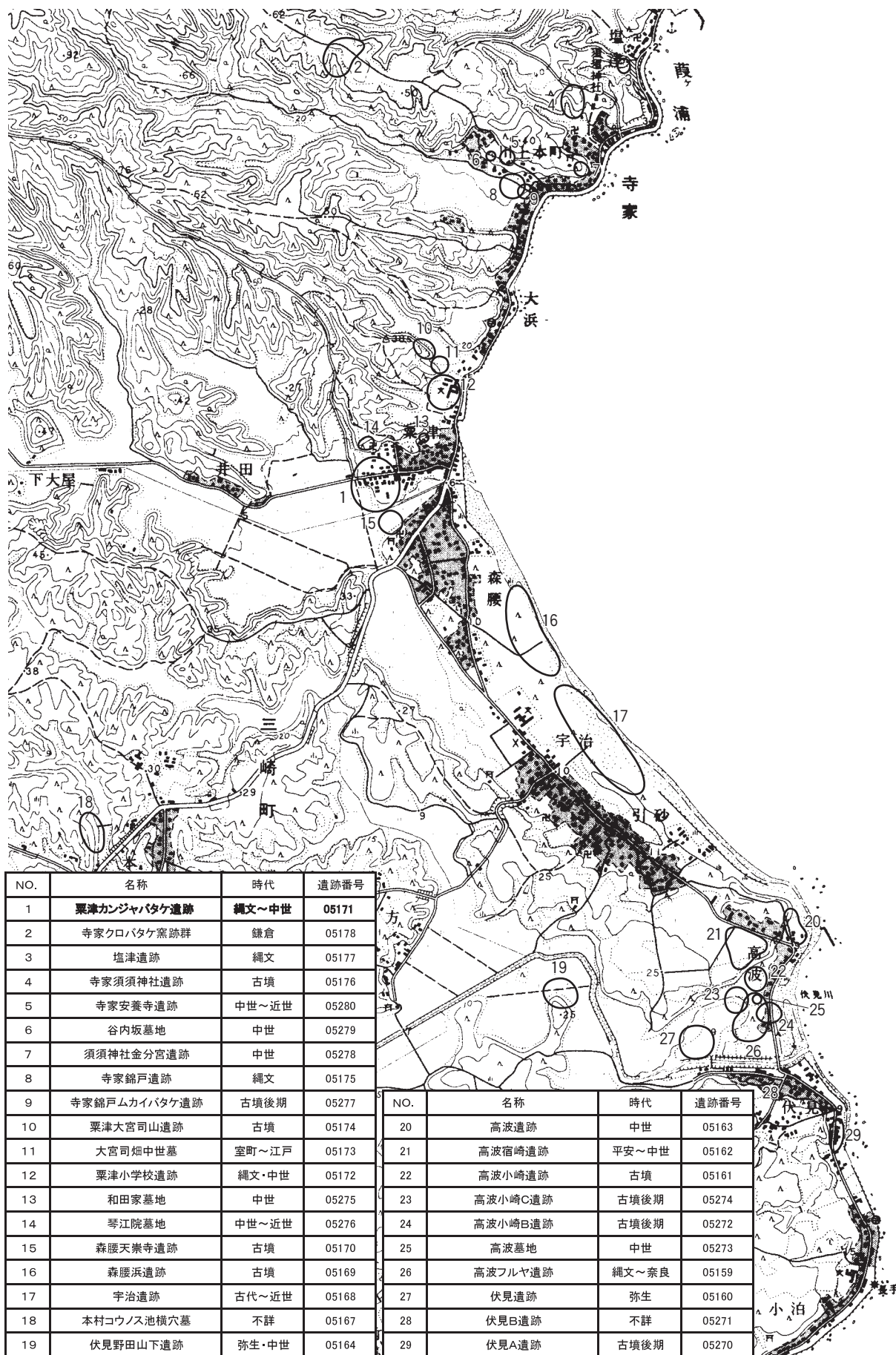
平成16年4月23日に農林・文化財課・埋文との間で現地協議が行われ、去年度の残り580㎡分を調査することとなった。27日に表土除去を行い、5月6日から作業員が調査に参加した。遺構検出の結果、中・近世の土坑を確認した。土坑は方形を呈しており、骨片が出土していることから墓の存在を想定できた。15年度と同様の少穴や流路も検出しており、流路からは縄文～近・現代と多時期にわたる遺物が出土している。また検出面として捉えた層からは縄文土器が出土した。21日に遺構掘削・写真撮影、25日に実測が完了した。28日に現地引渡し、29日に器材撤収を行った。

平成17年度、文化財課は平成15・16年度調査分の出土品整理と報告書刊行を埋文に委託した。出土品整理は企画部整理課が担当し、報告書刊行は調査部調査第2課が担当した。

第2章 遺跡の位置と環境

遺跡の位置と地理的環境 粟津カンジャバタケ遺跡は石川県珠洲市三崎町粟津地内に所在し、遺跡の立地する三崎町粟津は珠洲市の北東端、粟津川河口付近に位置する。珠洲市は能登半島の北東端に位置し、北は日本海、東・南は富山湾に面し、西は輪島市・能登町と接している。市の北部域は宝立山を最高峰とする山地が大部分を占めており、その海岸線は外浦と呼ばれる。山地が直接海に迫って比高の大きい急斜面や急崖の良く発達する岩石海岸からなり、その岩場の多い海岸線は美しい景観を見せてくれている。また、市の東・南部域は高度300m以下の丘陵地が大部分を占め、東部域には海成段丘の顕著な発達が見られる。東・南部域の海岸線は比較的なだらかな砂浜海岸で内浦と呼ばれる。内浦には広域ではないが平野部が見られる。小規模な河川がほとんどで大きな河川は見られない。

歴史的環境 珠洲地域での最も古い遺物として、旧石器時代晩期から縄文時代草創期にかけての尖頭器が三崎町雲津地内で採取されている。縄文時代には塩津遺跡(3)・寺家錦戸遺跡(8)・粟津小学校遺跡(12)・高波フルヤ遺跡(26)が存在し、中でも高波フルヤ遺跡は縄文時代前期から奈良時代までの長期にわたる遺跡である。弥生時代には伏見野田山下遺跡(19)・高波フルヤ遺跡(26)・伏見遺跡(27)等がある。古墳時代の遺跡としては寺家須須神社(4)・粟津大宮司山遺跡(10)・森腰天崇寺遺跡(15)・森腰浜遺跡(16)・高波小崎遺跡(22)・高波小崎C遺跡(23)・高波小崎B遺跡(24)・寺家錦戸ムカイバタケ遺跡(9)・伏見A遺跡(29)等が存在する。このころから土器製塩が始まり、明治時代に至るまで製塩活動が盛んに行われていた。市域でも特に高波・伏見・粟津など三崎町沿岸部に製塩遺跡が集中している。古代の遺跡には宇治遺跡(17)・高波宿崎遺跡(21)・高波フルヤ遺跡(26)がある。中世の遺跡としては寺家クロバタケ窯跡群(2)・寺家安養寺遺跡(5)・谷内坂墓地(6)・須須神社金分宮遺跡(7)・大宮司畑中世墓(11)・粟津小学校遺跡(12)・和田家墓地(13)・琴江院墓地(14)・宇治遺跡(17)・伏見野田山下遺跡(19)・高波遺跡(20)・高波宿崎遺跡(21)・高波墓地(25)等が存在する。この時代から須恵器の系譜を引く珠洲焼の生産が始まる。確認できる最古の窯は寺社カメワリ坂1号窯といわれ、寺家クロバタケ窯跡群をはじめ、市域全体では約20基の窯があるといわれている。寺家クロバタケ窯跡群は一箇所に多数の窯が集中しており、珠洲焼の甕・壺・鉢が多数出土している。平成17年度に県埋文センターによって発掘調査が行われた粟津小学校遺跡からは中世の集落跡や墓が確認されている。なお、粟津カンジャバタケ遺跡は昭和50年度に石川考古学研究会と金沢大学考古学研究会が主体となって発掘調査が行われており、1976年に刊行された『珠洲市史』第一巻資料編自然・考古・古代にその成果が掲載されている。



第3図 周辺の遺跡 (S=1/25,000)

第3章 調査の概要

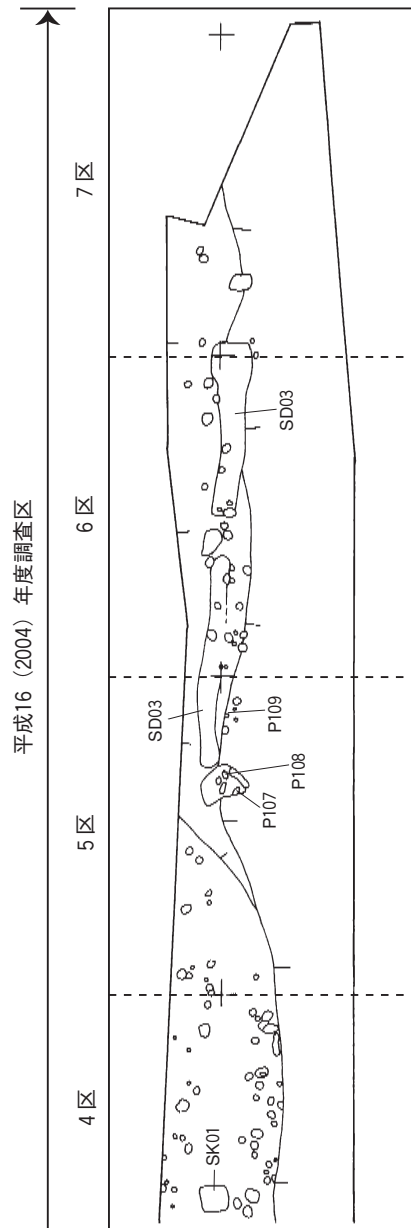
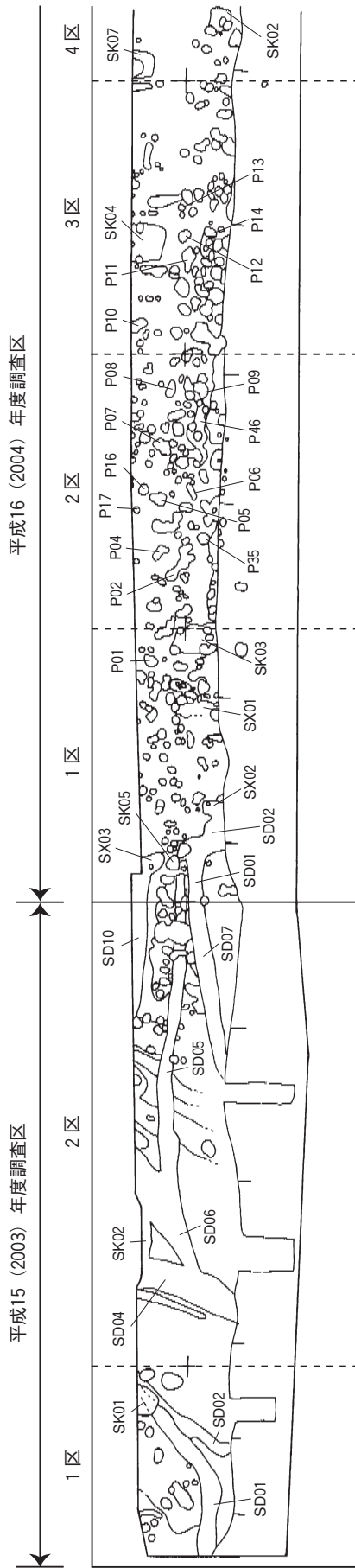
調査の概要 調査面積は長さ100m・幅は8m（東端は若干縮まる）の計780㎡で、平成15年度は200㎡、平成16年度が580㎡である。調査区は粟津川左岸に沿うようにして東西方向に伸びている。グリッドは調査年度ごとに設定した。平成15年度は実測用の杭を任意に打ち、西から順に1～2区まで設定して遺物取上げを行った。平成16年度は昨年度の東側に10m間隔で杭を打ち、西から順に1～7区まで設定して遺物取上げを行った。遺構番号も調査年度ごとに付しており統一はしていない。調査区割図（第4図）は元々、平成15・16年度の2箇所に分かれていた図面を合成したものである。

調査区南半で検出した旧河道の面、すなわち黄橙色粗砂層（後述のV層）で遺構検出を行い、古代の土坑、中世の溝、中・近世の土坑墓などを検出した。また、小穴を多数検出し、弥生時代～中世までの遺物が出土しているが、調査着手直前まで調査区内には大規模な稲架が立っていた状況であり、攪乱穴に遺物が混入した遺構も相当数あったと想定される。埋土による時期差も認識しづらく、柱穴と攪乱穴を区別できるような証拠を得るには至らなかったものも多い。遺構は調査区東端で減少するが、これは遺跡の東限を示すものと判断した。遺物は縄文時代～近・現代までのものが出土した。

基本層序 土層はI～Vの大きく5層に分かれる。土色は調査年度で統一されていない。そこで写真や図面を参考にしつつ、年度ごとの層位がどのような土質を主体にしているかを基準に分層した。

平成15年度調査区（第5・6図）ではI表・耕土（1・2・24・25層）・II褐色粗砂（3・36・40層）・IV黄褐色粗砂（4・14・15・37層）・V黄橙色粗砂（遺構検出面）の4層に分層した。遺構ではSK01、SD04・05・10がV層、SD06はII層に属する。ただ、削平されてはいるがSK01は出土遺物の時期や遺構の切合いから判断して、古代の遺構と想定している。平成16年度調査区（第7～11図）ではI表・耕土（2・7・8・12・24・25層）・II暗褐色粗砂（41・56層）・III黄褐色粗砂を含む暗褐色粗砂（30・57・98・102層）・IV黄褐色粗砂（11・17・19・20・31・32・36・37・39・40・59・100層）・V黄橙色粗砂（遺構検出面）に分層した。遺構ではSK04がII層、SK07はIII層に属する。

以上の結果をふまえつつ、遺構から出土した遺物の時期を基に時期を判断すると、SK04・07が中・近世でSD05は中世と想定できることから、V層上面が中世、IV層以上はそれより新しいことがわかる。V層は縄文時代～弥生時代の土器を包含している。したがってV層上面で検出した遺構は縄文時代ないし弥生時代の流土（水流というよりはむしろ風による粗砂の被覆）の上から構築されたものとする。壁土層で観察できる小穴断面の切合いから生活面をより細かく区分けすることも可能であるが、各層とも異時期の土器を混入しており、これ以上の時期推定はできなかった。



第4図 調査区割図 (S=1/240)

第4章 遺構と遺物

第1節 遺 構

検出高は遺構検出面の標高値を、深さは検出高からの深さを示す。平成15年度調査区では溝（SD）を主に、平成16年度調査区では土坑（SK）について説明を加える。

平成15年度調査区

SK01（第5・12図） 1区に位置し、SD01に切られる。隅丸方形を呈すると思われ、検出高1.78m・長辺80cm以上・深さ39cmを計測する。埋土は黒褐色粗砂を基調とする。坑底は平坦に仕上げられ、形状も上端同様方形を呈する。須恵器が出土し、時期は古代と判断した。

SD01（第5・12図） 1区に位置し、SK01を切り、SD02に切られる。検出高1.78m・幅50cmを計測する。深さは25cmで、溝底は北東から南西へと傾斜する。埋土は暗褐色粗砂を基調とする。遺物は出土していないが、遺構の切合いから時期は中世と判断した。

SD04（第5図） 2区に位置し、SK02・SD03を切る。検出高1.8m・幅80cmを計測する。深さは20cmで、溝底は北から南へと傾斜する。埋土は暗褐色粗砂を基調とする。土師器の椀（19）と珠洲焼が出土し、被熱した珪藻土も少量出土している。時期は中世である。

SD05（第5・6・12図） 2～3区に位置し、SD09を切り、SD06に切られる。検出高2m・幅50～60cmを計測する。深さは20cmで、溝底は東から西へと傾斜する。埋土は茶褐色粗砂を基調とする。他の溝は旧栗津川へと伸びているが、SD05はそれと併走するようにして掘り込まれていた。

SD07（第6図） 2区に位置する。検出高2m・幅60cmを計測する。深さは50cmで、溝底は東から西へと傾斜し、埋土は茶灰色粗砂を基調とする。平成16年度1区SD01とつながる。

SD10（第6図） 2区に位置する。検出高2.01m・幅60cm以上を計測する。深さは30cmで、溝底は概ね平坦である。埋土は黒褐色粗砂基調でSK01と似る。当初は竪穴状遺構と想定していたが、平成16年度1区SX03・SD02とつながることから溝とした。埋土から判断して中世以前の可能性がある。

平成16年度調査区

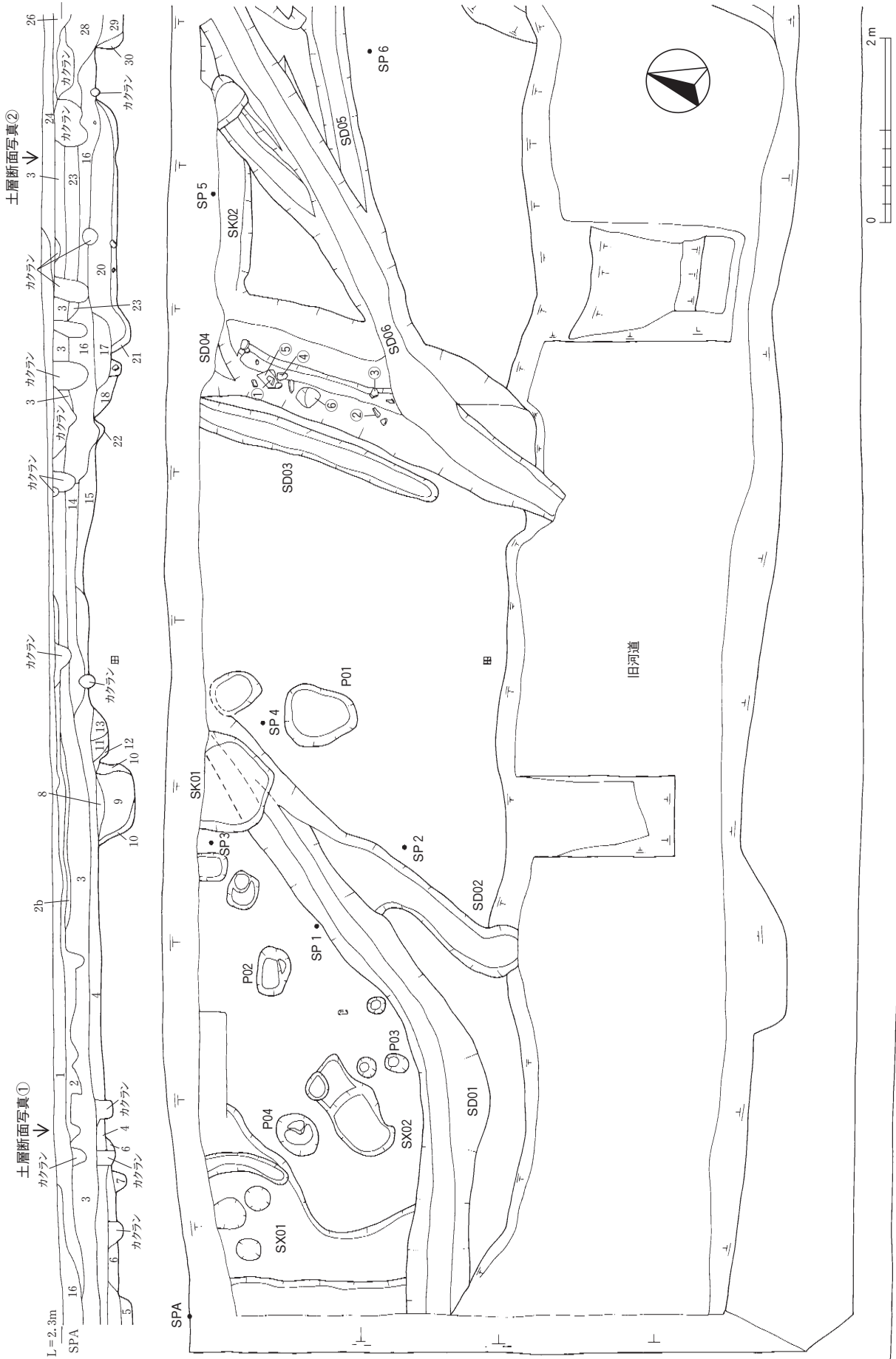
SK01・02・04・07からは骨片が出土しており、中・近世の土坑墓である可能性が高い。

SK01（第9・12図） 4区に位置し、隅丸方形を呈する。検出高2.18m・1辺90cm・深さ20cmを計測する。埋土は黒褐色粗砂を基調とし、底面に3mm程度の炭化物層が堆積していた。

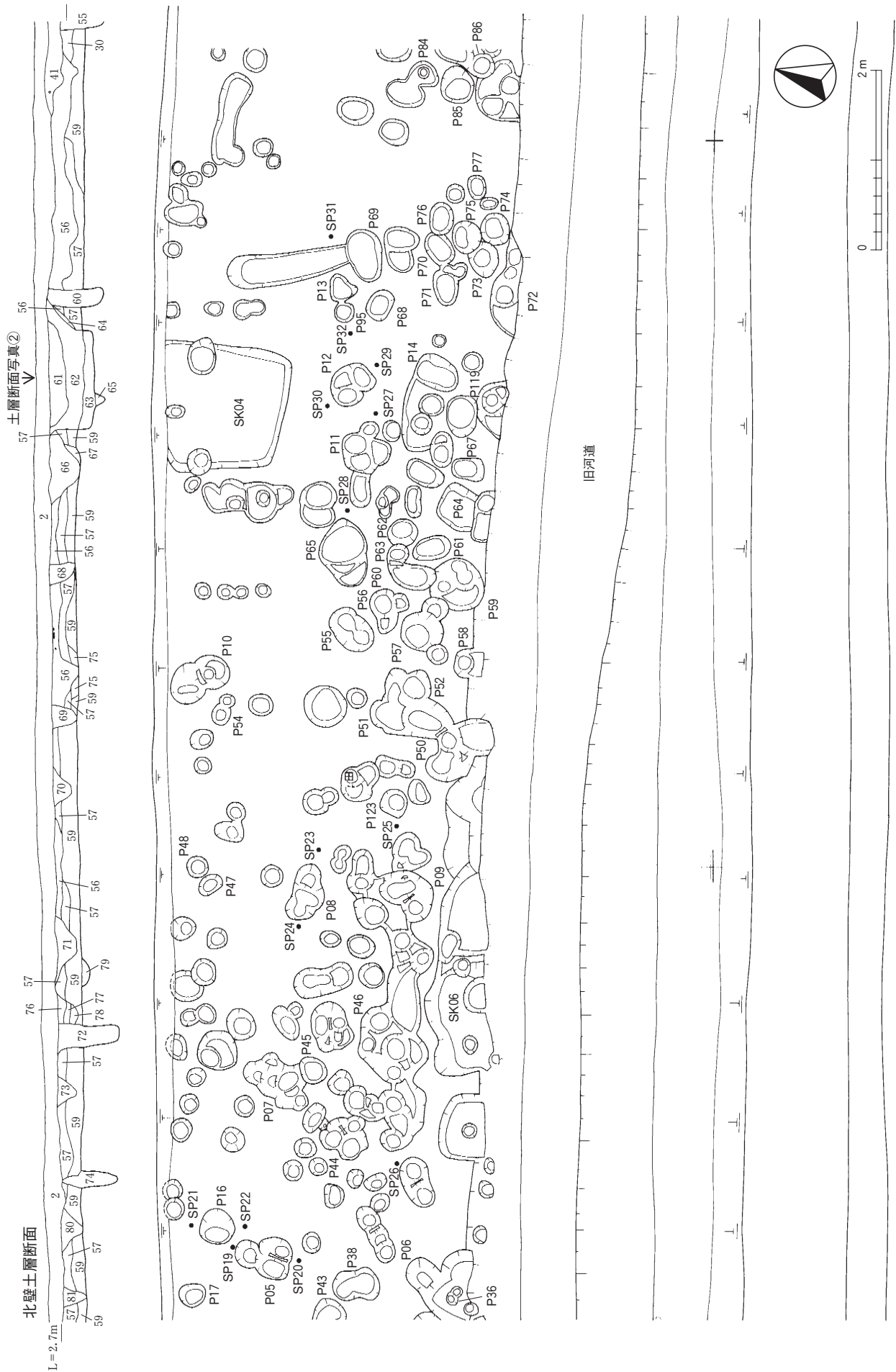
SK02（第9・12図） 4区に位置する。歪んだ隅丸方形を呈し、3基の小穴に切られる。検出高2.2m・1辺80cm・深さ13cmを計測する。埋土は黒褐～暗褐色粗砂を基調とする。

SK04（第8図） 3区に位置し、歪んだ隅丸方形を呈する。検出高2.4m・1辺1.35m以上・深さ19cmを計測する。埋土は地山ブロックを含む黒褐色粗砂を基調とする。人為的に埋め戻されており、最下層では炭粒を多く含む。土層観察の結果、時期は近世以降と判断した。

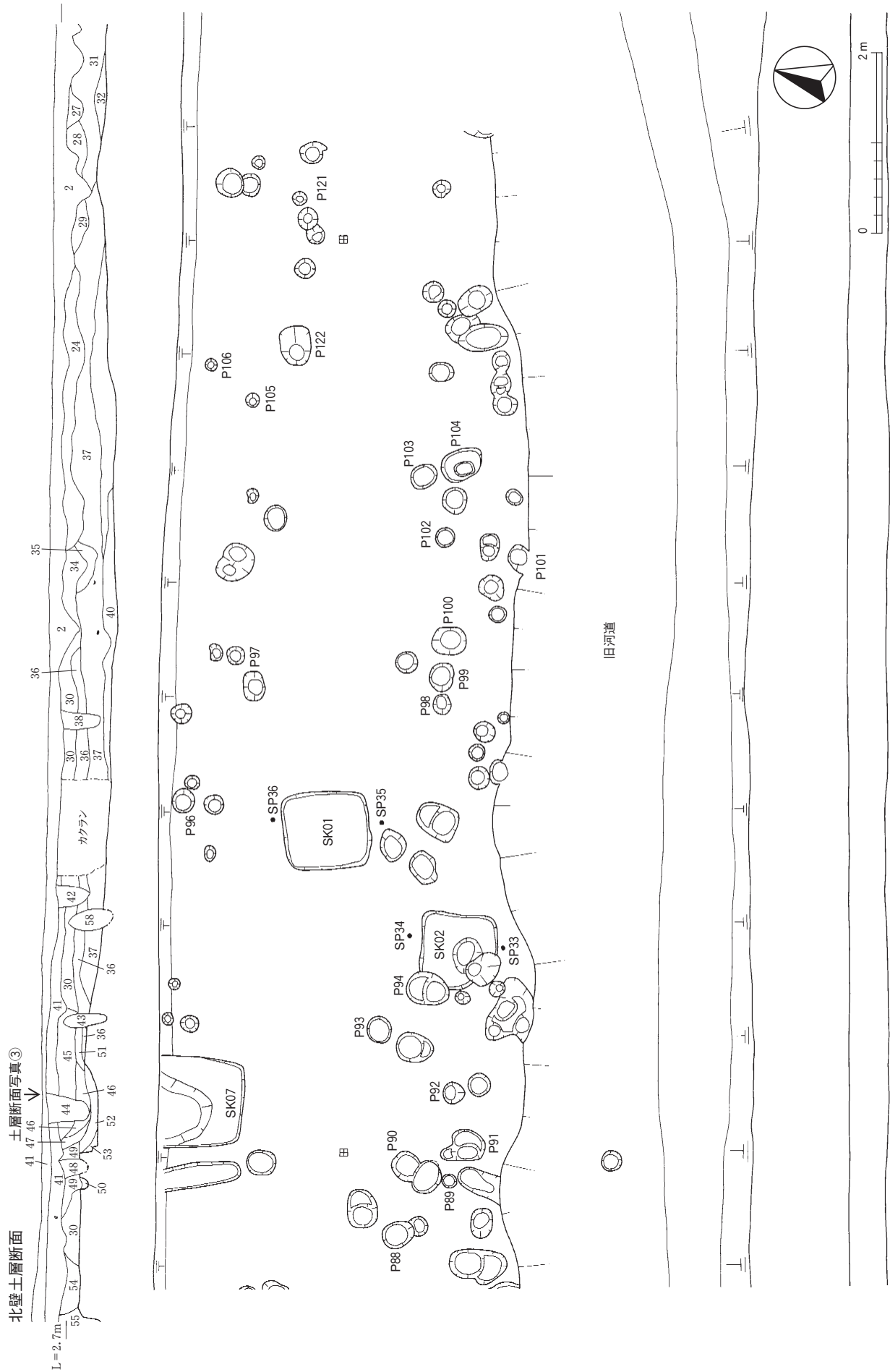
SK07（第9図） 4区に位置し、隅丸方形を呈する。検出高2.4m・1辺95cm以上・深さ6cmを計測する。埋土は地山ブロックを含む黄灰色粗砂を基調とする。人為的に埋め戻された後に掘り返されており、その後に黒褐～暗褐色粗砂が堆積する。土層観察の結果、時期は近世以降と判断した。



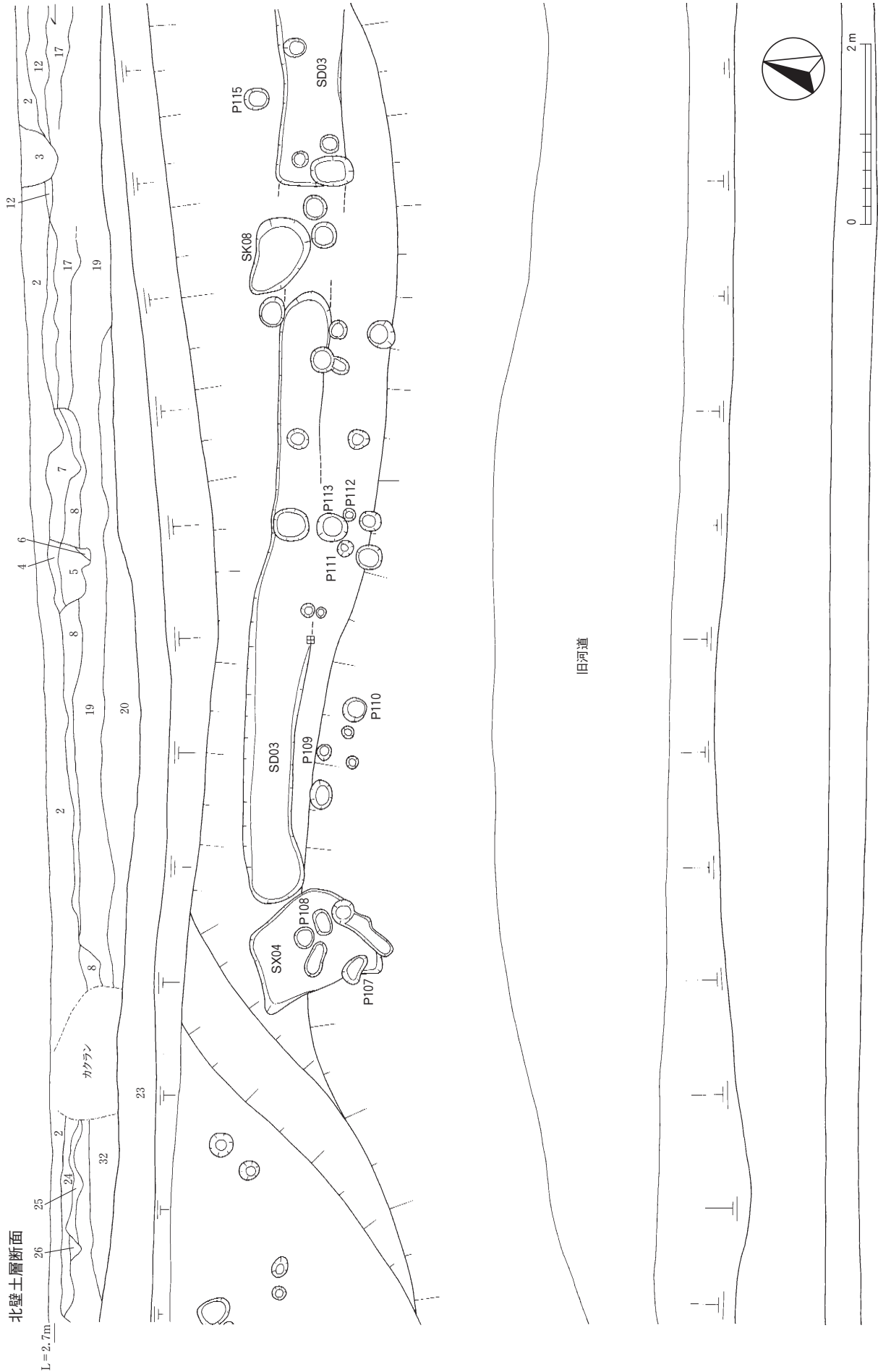
第5図 平成15年度調査区平面図・北壁土層断面図(1) (S=1/60)



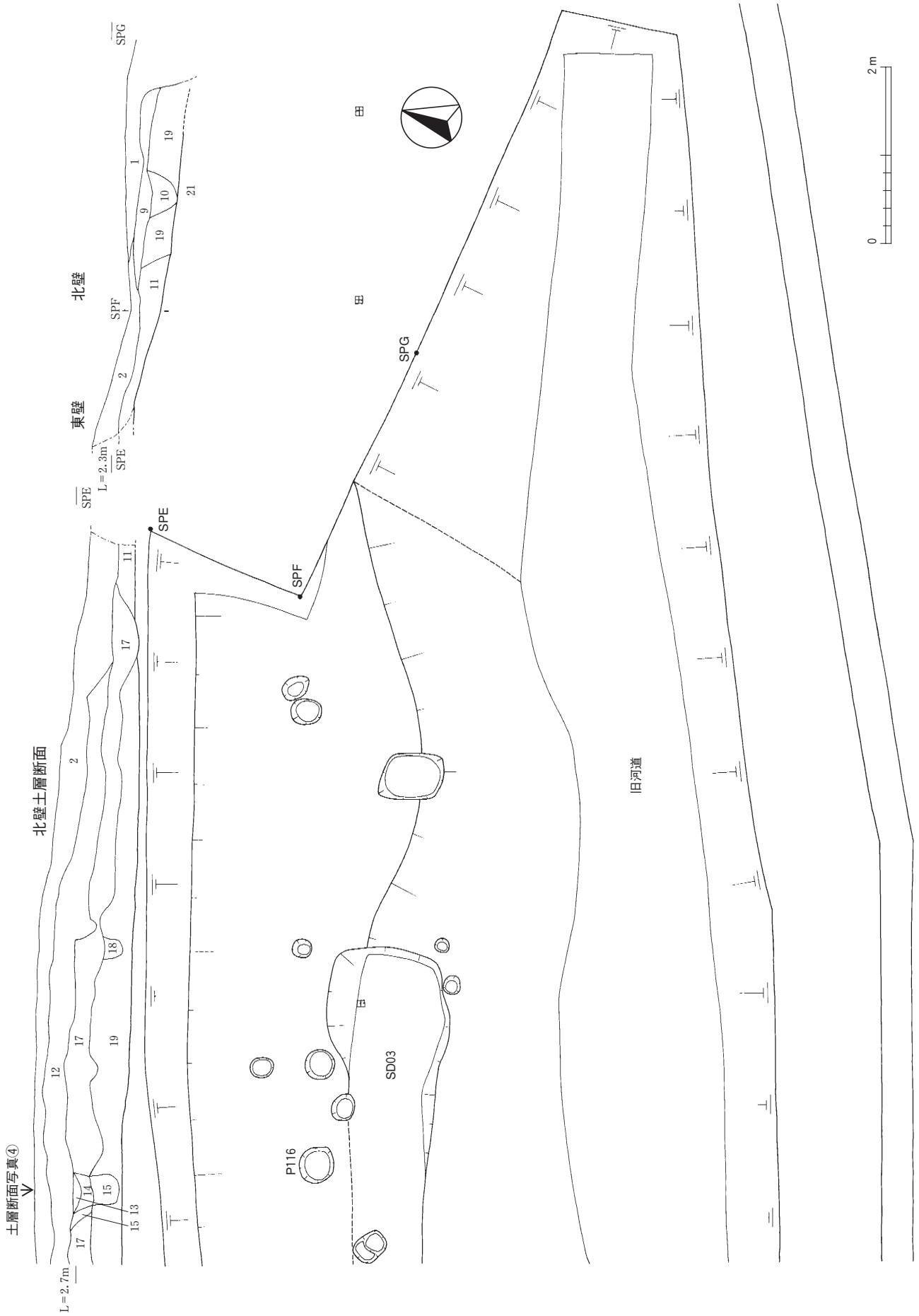
第8図 平成16年度調査区平面図・北壁土層断面図(2) (S=1/60)



第9図 平成16年度調査区平面図・北壁土層断面図(3) (S=1/60)



第10図 平成16年度調査区平面図・北壁土層断面図(4) (S=1/60)



第11図 平成16年度調査区平面図・北壁土層断面図(5) (S=1/60)

平成15年度調査区 北壁土層断面図土色

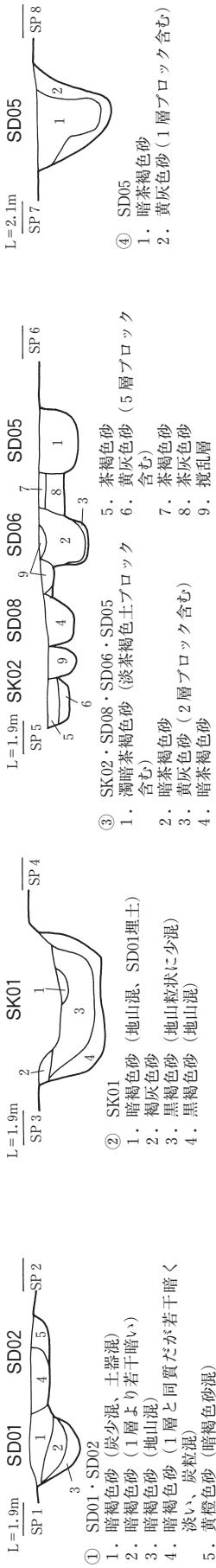
1. 褐色砂 (表土、しまり弱)
2. 明黄褐色砂 (地山砂、ブロック状に多混、攪乱層? 下部に地山砂が薄く層上に入る)
3. 褐色砂 (炭少混)
4. 黄褐色砂
5. 暗褐色砂
6. 黄褐色砂 (若干灰色帯びる、SX01埋土)
7. 黄橙色砂 (褐色砂混)
8. 褐色砂 (SK01とは別埋土? 平面ではSK01の上層として検出した)
9. 黒褐色砂 (SK01埋土、地山砂、土器細片少混)
10. 黒褐色砂 (SK01埋土、地山砂多混)
11. 暗褐色砂 (SD01埋土、炭少混)
12. 暗褐色砂 (SD01埋土、地山砂若干混)
13. 暗褐色砂 (SD02埋土、炭、礫少混、11, 12層より若干褐色が強い)
14. 黄褐色砂 (4層と同質、若干褐色強い)
15. 黄褐色砂 (4層と同質だが地山砂ブロック状に少混)
16. 暗褐色砂 (炭少混、地山砂粒状に入る、遺構の可能性有り、他の暗褐色砂より若干暗め)
17. 暗褐色砂 (炭、礫、ケイソウ土少混、SD04埋土)
18. 暗褐色砂 (地山砂多混、SD02埋土)
19. 暗褐色砂 (地山砂多混、SD02とは別の遺構?)
20. 暗褐色砂 (炭、土器細片少混、16層より褐色強い)
21. 暗褐色砂 (地山砂多混、SK02埋土)
22. 黄橙色砂 (SD03埋土、暗褐色砂混)
23. 褐色砂 (16層と同質)
24. 褐~明黄褐色砂 (表土、1層より若干暗い、炭少混)
25. 褐色砂 (表土、24層と同質だが炭の入る割合が高い)
26. 明黄褐色砂 (2層に色相近い、攪乱層?)
27. 褐色砂 (3層と同質だが若干黄色を帯びる)
28. 褐~暗褐色砂 (所々に地山砂まともに入って、16, 23層の混層に近い)
29. 暗褐色砂 (地山砂混)
30. 暗褐色砂 (地山砂多混)
31. 褐色砂
32. 褐色~褐色砂 (炭少混)
33. 褐色砂 (炭少混)
34. 黄橙色砂 (礫混、攪乱層?)
35. にぶい黄褐色砂 (炭、地山砂混)
36. 褐色砂 (27と同質だが若干灰色帯びる)
37. 褐色砂 (炭少混、土器片混)
38. 暗褐色砂 (炭少混)
39. 暗褐色砂 (炭、地山砂少混)
40. 褐~黄褐色砂
41. 明黄褐色砂
42. 黒褐色砂 (炭少混)
43. 黒褐色砂 (地山砂多混)
44. 黒褐色砂 (地山砂混)
45. 暗褐色砂 (地山混)

平成16年度調査区 北壁土層断面図土色

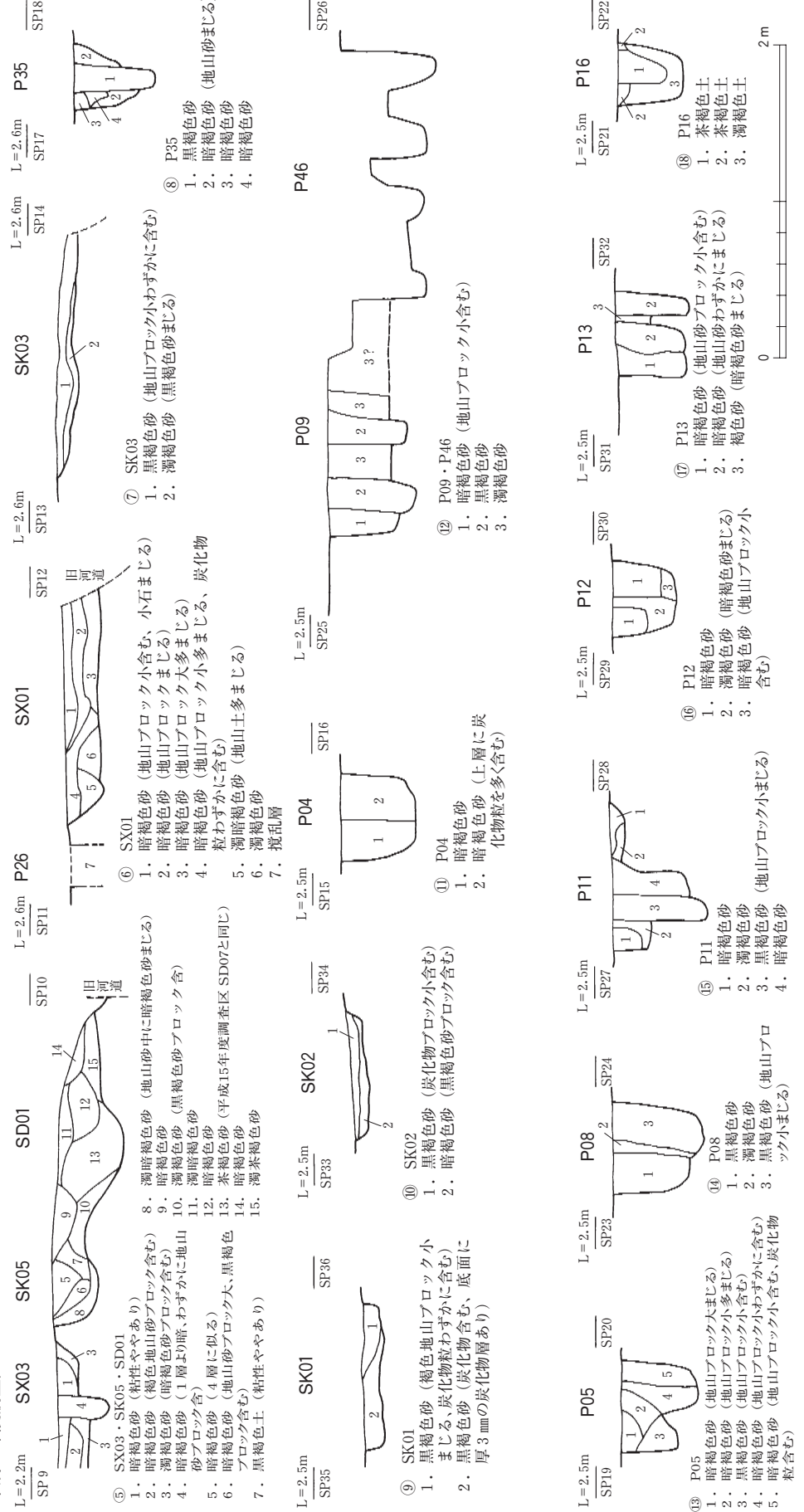
1. カクラン (旧河川埋土、ゴミ混入)
2. 表土 (黒褐色砂質土)
3. カクラン
4. 黒褐色砂質土+炭粒混
5. 暗褐色砂質土 (弥生土器小片混)
6. 黒褐色砂質土 (しまりあり)
7. 暗褐色砂質土
8. 黄褐色砂+暗褐色砂質土ブロック混 (畑の開墾によるカクラン)
9. 暗褐色砂+黄褐色砂 (畑の開墾によるカクラン)
10. 暗褐色砂+炭粒混
11. 黄橙色砂+暗褐色砂ブロック混 (地山漸移層)
12. 表土 (暗褐色砂質土) 弥生土器混入
13. 暗褐色砂
14. 暗褐色砂+黄褐色砂ブロック少混
15. 褐色砂+黄褐色砂ブロック少混
16. 褐色砂+黄褐色砂ブロック多混
17. 黄褐色砂+暗褐色砂ブロック多混
18. 暗褐色砂+黄褐色砂ブロック混
19. 黄褐色砂+暗褐色砂ブロック少混
20. 黄橙色砂+灰黄砂ブロック混 (地山漸移層)
21. 黄褐色砂 (地山)
22. 黄橙色砂 (地山) 上面に縄文土器混
23. 灰黄砂 (地山)
24. 暗褐色砂質土 (表土)
25. 暗褐色砂質土+黄褐色砂 (畑の開墾によるカクラン)
26. 暗褐色砂質土 (24層よりやや暗い)
27. 黒褐色砂質土+黄褐色砂ブロック少混
28. 暗灰色砂
29. 暗褐色砂質土+黄褐色砂ブロック混
30. 暗褐色砂+黄褐色砂ブロック多混
31. 黄褐色砂+黄橙色砂
32. 灰黄砂+黄橙色砂ブロック少混
33. 黄橙色砂
34. 黒褐色砂
35. 黒褐色砂+黄褐色砂
36. 黄褐色砂+黄橙色砂ブロック少混
37. 黄橙色砂 (土器片混)
38. 暗褐色砂質土 (墓穴)
39. 黄灰色砂+黄褐色砂ブロック混
40. 黄橙色砂+黄灰色砂ブロック多混
41. 暗褐色砂質土 (土器片混)
42. 暗褐色砂質土+炭粒
43. 暗褐色砂質土
44. 暗褐色砂質土
45. 黒褐色砂質土 (SK07埋土)
46. 暗褐色砂 (SK07埋土)
47. 暗褐色砂+褐色砂 (SK07埋土)
48. 暗褐色砂+黄褐色砂ブロック多混
49. 褐色砂
50. 褐色砂+黄灰色砂ブロック多混
51. 暗褐色砂+褐色砂ブロック混
52. 黄灰色砂+黄橙色砂ブロック多混+暗褐色砂ブロック混 (SK07埋土)
53. 黄灰色砂+黄橙色砂ブロック少混 (SK07埋土)
54. 暗褐色砂
55. 暗褐色砂+黄褐色砂ブロック多混 (墓穴)
56. 暗褐色砂 (土器片混)
57. 暗褐色砂+黄褐色砂ブロック多混

58. 暗褐色砂質土+炭粒
59. 黄褐色砂+褐色砂ブロック混
60. 暗褐色砂+黄褐色砂ブロック少混+炭粒混 (墓穴)
61. 暗褐色砂+黄橙色砂ブロック混 (SK04埋土)
62. 黄橙色砂+暗褐色砂ブロック多混 (SK04埋土)
63. 暗褐色砂+炭粒多混 (SK04埋土)
64. 暗褐色砂 (SK04埋土)
65. 暗褐色砂+黄橙色砂ブロック
66. 暗褐色砂
67. 暗褐色砂+黄褐色砂ブロック少混
68. 暗褐色砂 (墓穴)
69. 暗褐色砂
70. 褐色砂
71. 暗褐色砂+黄橙色砂ブロック少混
72. 暗褐色砂+褐色砂ブロック混
73. 暗褐色砂+黄褐色砂ブロック多混
74. 暗褐色砂+黄褐色砂ブロック多混
75. 黄褐色砂+暗褐色砂ブロック多混
76. 黄褐色砂+褐色砂ブロック多混+黄褐色砂ブロック少混
77. 黄褐色砂+褐色砂ブロック多混
78. 黄褐色砂+暗褐色砂ブロック多混
79. 黄灰色砂+黄褐色砂ブロック多混
80. 暗褐色砂+黄褐色砂
81. 暗褐色砂+炭粒混
82. 暗褐色砂+黄褐色砂ブロック少混
83. 黄褐色砂+暗褐色砂ブロック少混
84. 黄褐色砂+暗褐色砂ブロック多混
85. 暗褐色砂質土
86. 暗褐色砂+暗褐色砂ブロック混
87. 暗褐色砂+暗褐色砂ブロック多混
88. 暗褐色砂
89. 暗褐色砂
90. 暗褐色砂+黄褐色砂ブロック混
91. 黄褐色砂+暗褐色砂ブロック多混
92. 暗褐色砂+黄褐色砂ブロック混
93. 暗褐色砂+黄褐色砂ブロック少混
94. 黄灰色砂+褐色砂ブロック少混
95. 暗褐色砂+黄褐色砂ブロック少混
96. 暗褐色砂+黄褐色砂ブロック多混
97. 褐色砂+黄褐色砂ブロック少混
98. 暗褐色砂+褐色砂ブロック多混
99. 暗褐色砂
100. 暗褐色砂+黄灰色砂ブロック多混
101. 黄褐色砂+黄灰色砂ブロック混 (地山)
102. 褐色砂+暗褐色砂ブロック多混
103. 暗褐色砂+黄灰色砂ブロック少混
104. 黄灰色砂+黄褐色砂ブロック混
105. 暗褐色砂
106. 暗褐色砂+黄褐色砂ブロック多混
107. 暗褐色砂+暗褐色砂ブロック混 (SK08埋土)
108. 暗褐色砂+暗褐色砂炭粒多混 (SK08埋土)
109. 暗褐色砂+褐色砂ブロック混 (SK08埋土)
110. 暗褐色砂+黄灰色砂ブロック少混 (SD02埋土)
111. 暗褐色砂+黄灰色砂ブロック多混 (SD02埋土)
112. 黄灰色砂+暗褐色砂ブロック混

平成15年度調査区



平成16年度調査区



遺構断面図 (S=1/40)

第2節 遺物

平成15年度出土の土器9点と平成16年度出土の土器・土製品18点、平成14年度に周辺で採集した石製品2点を図化した。石製品は他にも2点出土しており、写真のみ掲載している。また『珠州市史』に報告された昭和50年度の調査による出土遺物も再録し、必要に応じて追加報告を行う。観察表も編集し直し、新たに観察した点を追加記載したが、30年の間に行方のわからなくなった遺物が若干存在し、空欄となっている項目があることをご容赦願いたい。器種は「～形土器」を省略し、「甕」・「壺」などと呼ぶこととし、調整も「ハケ」・「ナデ」のように「調整」を省略して呼ぶこととする。

土器（第13～18図）

1～8・11～15・25・26は平成16年度、9・10・16～21・24は平成15年度出土土器である。

1～9は縄文土器である。1は磨消縄文を施したのち、縦位の条痕を施した深鉢である。2は平縁の深鉢で、条痕を施したのち、楕円区画文と上方向からの円形刺突文を配している。3・4は波状口縁の深鉢である。3は内湾して立ち上がる波状口縁に沿って沈線が3条施され、波頂部位に下方向から円形凹圧文を2段配する。4は口縁部が内側に屈曲して立ち上がり、波状口縁に沿って刺突文と3条の沈線を廻らす。波頂部位に円形凹圧文と扇状圧痕文を配し、口縁部文様帯の下に縦位の条痕を施している。5は波状口縁の浅鉢である。口縁部は内側に屈曲して外反しつつ立ち上がり、3条の太い沈線を直線状に廻らし、中央の沈線は波頂部位で円形凹圧文に寸断される。円形凹圧文は強く押され、内側に膨らみが残る。6・7は粗製深鉢である。6は体部に縦位の条痕を施したのち、口縁部に横位の条痕を施す。7は条痕を上から下方向に全面に施す。8は体部外面に縦位のLR単節縄文を施し、底部外面にスタレ状圧痕が残る。9は体部外面に細いハケ状の条痕を施し、底部外面に網状圧痕が残る。3～5は器形・文様から縄文時代後期中葉の井口Ⅱ式と考えられる。6も野々市町御経塚遺跡で同様のものが井口Ⅱ式と考えられており〔高堀1989〕、井口Ⅱ式が主体の時期と考えられる。1は磨消縄文が施され、やや古く酒見式と思われる。しかし条痕を施す点で他のものと同様の特徴を示し、外面に条痕を施すことが、酒見式～井口Ⅱ式にかけて、この遺跡において選択されていたと見られる。

昭和50年度の調査では、縄文土器が2点報告されている（第18図142・143）。これらの土器は器形や文様、串田新式に比定される輪島市大沢遺跡第Ⅲ群〔杉島1974〕での出土例から、縄文時代中期終末に近い串田新Ⅱ式に比定されている〔橋本1976〕。しかし、胎土が中期ではなく後期に特徴的なものであり（注1）、また今回報告のものとも似ている点から、酒見式または井口Ⅱ式まで下る可能性が指摘される。

10～21・24～26は弥生時代以降の土器である。10はおそらく弥生時代前期の筒形土器で、横方向の篋描綾杉文を上から下へ施している。体部と底部の接合面にはナデが施される。11は壺の肩部である。内面はハケを施したのち、ナデ上げている。外面はハケの後にミガキを施し、絵画文と見られる篋描文を施している。絵画文は丸みを帯びた線で構成され、鹿とも考えられるが、下半の同心円状の弧線は文様的で、画題は不明である。弥生時代中期後半から後期と考えられる。12は短い有段状の口縁を持つ甕である。頸部下半から体部にかけての外面と頸部内面にハケを施したのち、口縁部内外面にヨコナデを施す。体部内面はケズリを施したのち丁寧なナデが施されている。弥生時代後期後半と考えられる。13は内面にハケを施し、外面に縦方向のミガキを施した蓋である。14は口縁端部を上下に拡張した甕で、外面は口縁部にヨコナデを施したのちハケを施す。内面は頸部にハケを施したのち、口縁部にヨコナデを施している。15は高杯の脚部で、外面はハケののち粗い縦方向のミガキを施し、内

面はハケののちナデを施す。古墳時代中期～後期頃と考えられる。16～18は須恵器である。16は長いかえりを持つ蓋である。17は口縁部が内湾して立ち上がる坏と見られるが、脚が付く可能性がある。18は内湾気味に立ち上がる、甕または壺の口縁部で、外面に沈線が2条施される。19は土師器の椀である。内外面に煤が多く付着しており、灯明皿として使用されたと考えられる。20・21は土師器の小皿で、底部に糸切り痕が残る。口縁部は20が外上方に内湾して立ち上がるのに対し、21は直に立ち上がっている。24・25は珠洲焼の播鉢である。24は口縁端部をやや内側に摘み出して肥厚させている。14世紀頃と考えられる。25は1単位の幅2.7cm、11目の卸し目が、底部から上方向へ左回りに施され、底部外面には静止糸切り痕が残る。14世紀後半～15世紀前半と考えられる。26は卸し皿で、全面に黒褐色の釉薬を施している。卸し目は綾杉状の刻みが7段施されており、上段の右肩上がりの刻みは下から上方向へ、下段の右肩下がりの刻みは上から下方向へ施されている。シャモットを含む胎土は27の面戸瓦と似ており、近現代に同じ窯で生産されたと考えられる。

また『珠洲市史』には未記載だが、98の天井部内面・113の底部外面にヘラ記号が見られる。共に欠損しているものの、98は「|」、113は「×」であろうと思われる。また117の外面にも記号または絵画と見られる篋描文が2段施されている。上段は「F」を145度右回転させたものに似ており、下段はほぼ等間隔に描かれた7条の短い縦線に、やや右肩上がりの長い横線を1条交差させたものである。

土製品（第14・15図）

22・23は平成16年度出土の陶錘である。22は黒褐色を呈し、中央部で膨らむ。23は円柱状を呈し、赤褐色の釉薬が施されている。昭和50年度の調査でも円柱状の土錘が3点出土しているが、小さいもので長さ2.5cm、最大幅1.7cm、重さ8g前後、最大のものでも長さ3.4cm、最大幅2.2cm、重さ19.7gで小型・円柱状のものが多くある。27は面戸瓦で、平成16年度の調査で出土したものである。最大幅4.25cm、厚さ1.7cmで、側面や垂直方向の貼り付けが行われている面は、丁寧なナデが施されているが、その裏面は成形時の篋痕や「×」状のナデが残されている。

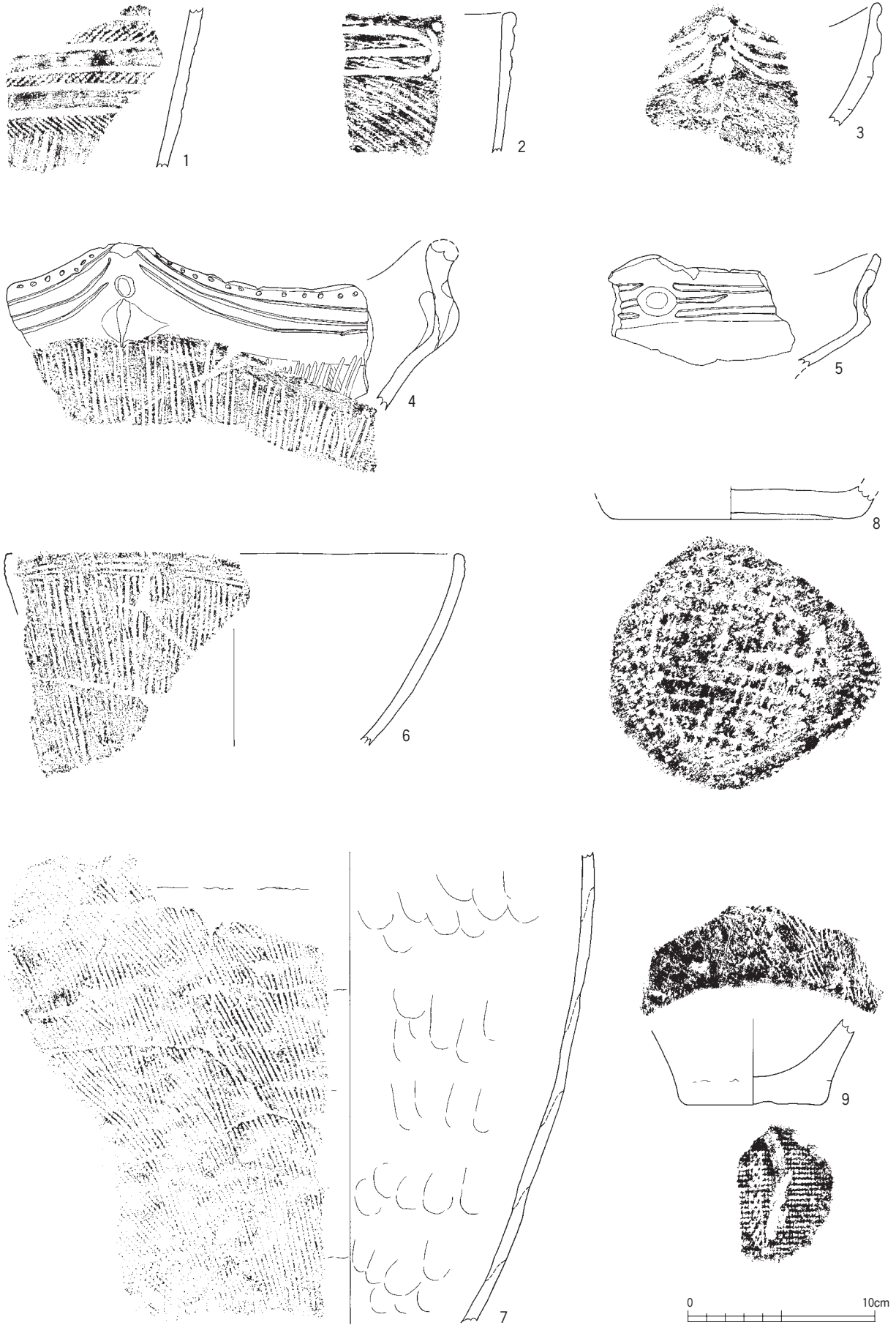
石製品（第15・18図）

平成14年度に、縄文時代の石器4点が遺跡周辺で表採されている。28は扁平で楕円形の凝灰岩の両端に、刻み目を施した石錘である。29は頁岩の剥片である。30・31は写真のみの報告だが、30は石錘、31は両極剥離剥片である。ともに頁岩と考えられる。昭和50年度の調査では、砂岩の砥石または凹石が1点報告されているが、時期は不明である（144）。

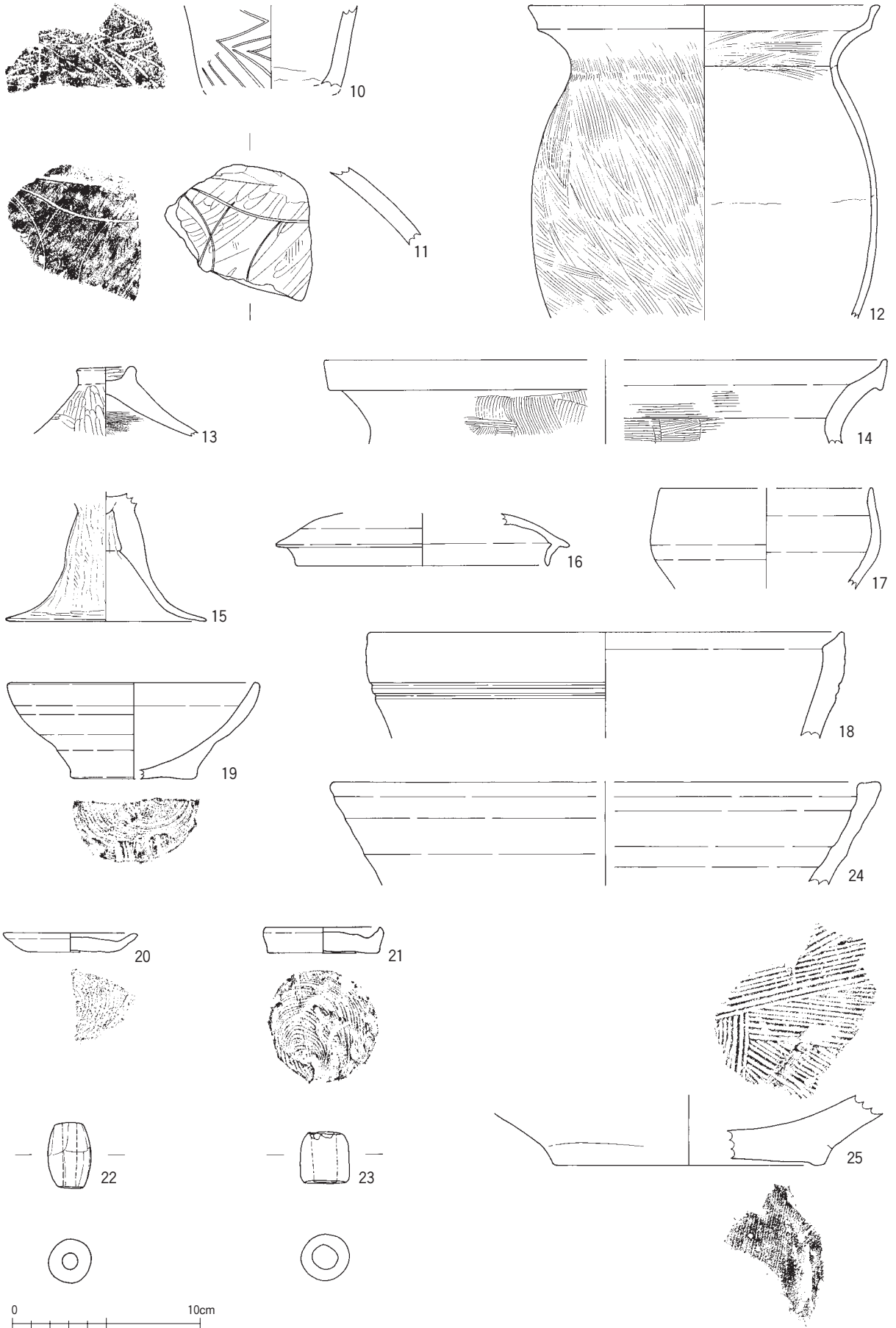
（注1）西野秀和氏の指摘による。

引用文献

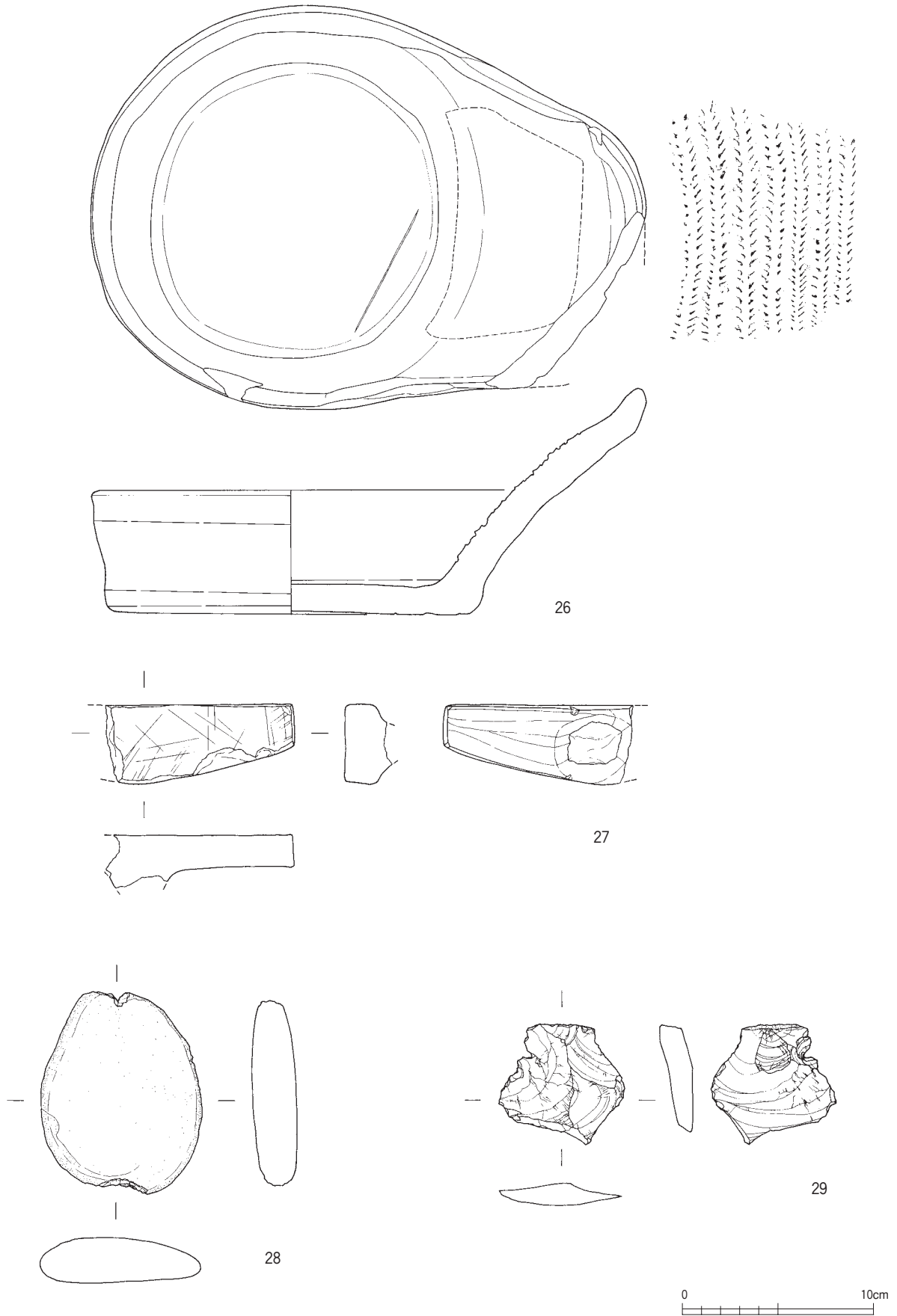
- 杉島孝博 1974 「大沢遺跡」『輪島市史』第三巻 資料編 輪島市史編纂専門委員会 12頁
 高堀勝喜 1989 『御経塚遺跡II』 野々市町教育委員会
 橋本澄夫 1976 「粟津カンジャバタケ遺跡の調査」『珠洲市史』第一巻 資料編 珠洲市史編纂専門委員会 858頁



第13図 平成15・16年度調査区出土遺物(1) (S=1 / 3)

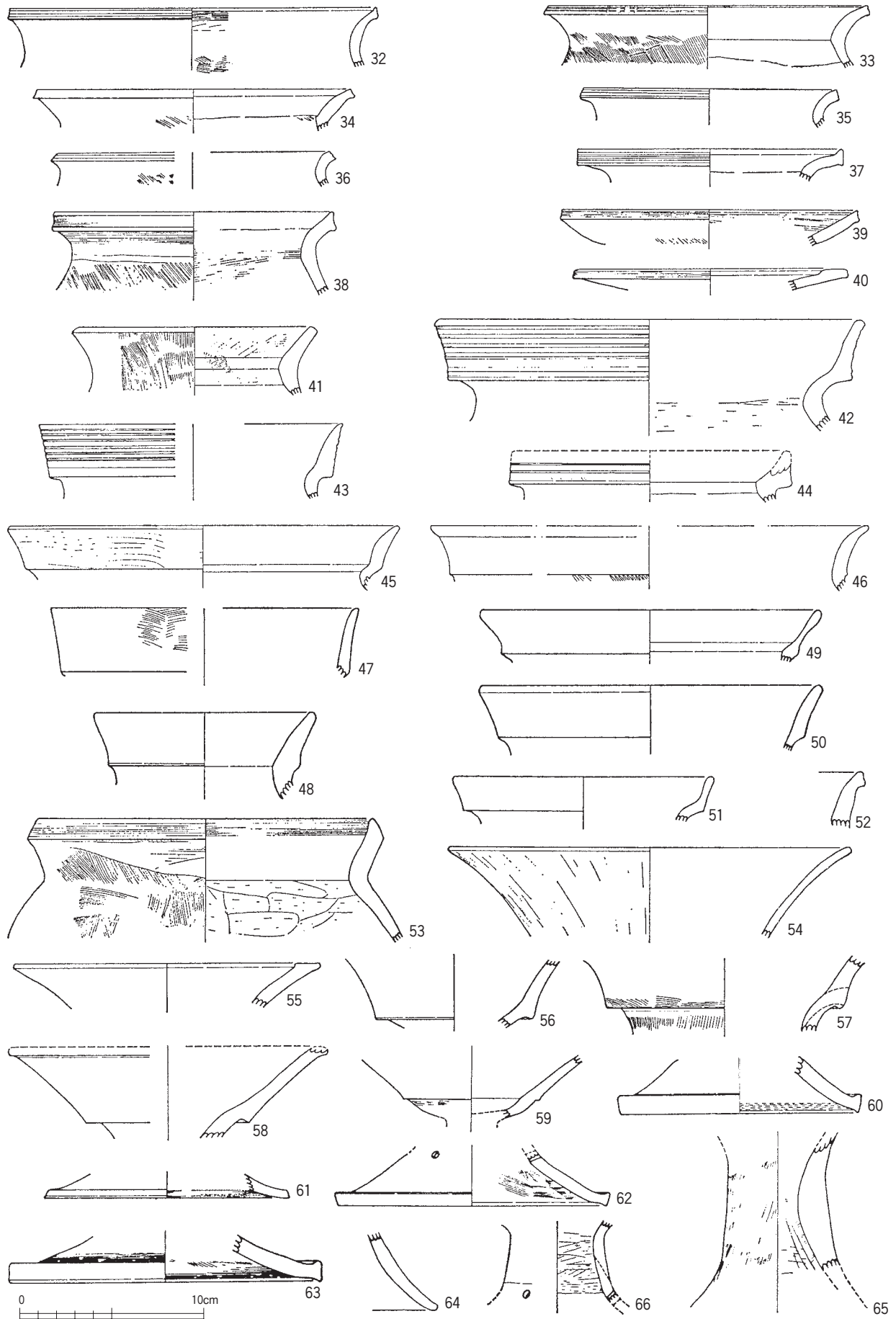


第14図 平成15・16年度調査区出土遺物(2) (S= 1 / 3)

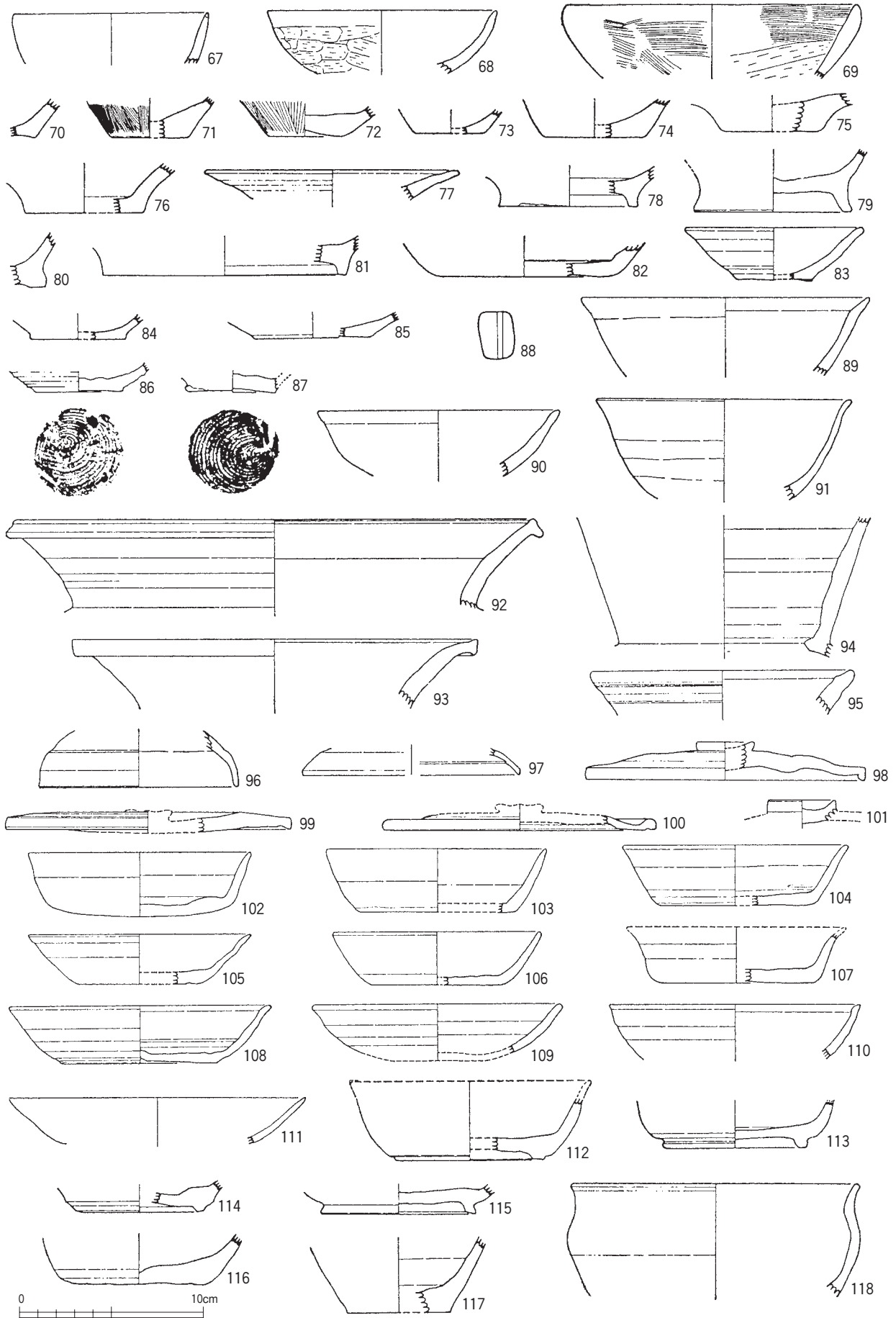


第15図 平成15・16年度調査区出土遺物(3) (S=1/3)

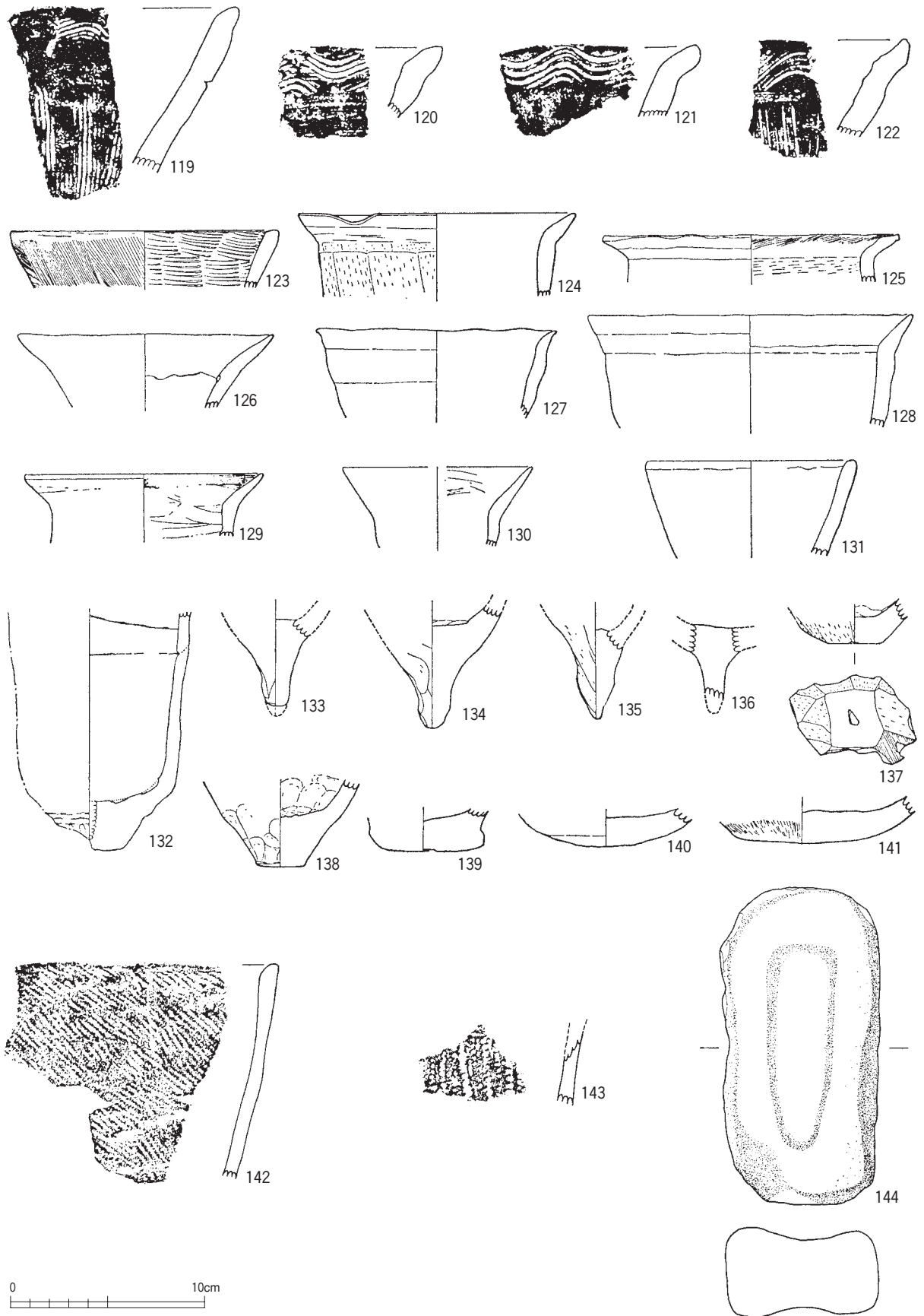
第2節 遺物



第16図 昭和50年度調査区出土遺物(1) (S=1 / 3)



第17図 昭和50年度調査区出土遺物(2) (S=1 / 3)



第18図 昭和50年度調査区出土遺物(3) (S=1/3)

第1表 平成15・16年度出土土器観察表

図版番号	年度	出土地点	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	焼成	色調内面	色調外面	胎土	調整内面	調整外面	備考
1	H16	5区 P108	縄文土器	深鉢	—	—	(8.6)	良	にぶい橙色	橙色	礫・粗砂多く含む	ナデ	施文、条痕	
2	H16	遺構検出	縄文土器	深鉢	—	—	(7.6)	良	灰白色	にぶい黄褐色	粗砂・細砂多く、海綿骨針含む	ナデ	施文、条痕	
3	H16	遺構検出	縄文土器	深鉢	—	—	(7.0)	良	浅黄褐色	浅黄褐色 ～にぶい黄褐色	粗砂・細砂多く・赤色粒含む	ナデ	施文	
4	H16	遺構検出	縄文土器	深鉢	—	—	(9.0)	良	にぶい黄褐色	橙色	0.5～1.0mm程度の砂粒多く含む	ナデ	施文、条痕	
5	H16	遺構検出	縄文土器	浅鉢	—	—	(6.0)	良	橙色	にぶい橙色	0.2～0.5mm程度の砂粒多く、海綿骨針含む	ナデ	施文、ナデ	
6	H16	5区 SD03	縄文土器	深鉢	24.6	—	(10.4)	良	にぶい黄褐色	暗褐色	0.5～1.0mm程度の砂粒多く、海綿骨針含む	ナデ	条痕	
7	H16	遺構検出 (河道内)	縄文土器	深鉢	—	—	—	良	橙色 ～にぶい赤褐色	橙色 ～にぶい赤褐色	礫少・粗砂細砂各中量、海綿骨針含む	ナデ、指ナデ、指頭圧痕	条痕	体部下半内外面煤付着
8	H16	遺構検出	縄文土器	底部	—	(13.6)	(1.8)	良	浅黄褐色	灰白色～橙色	粗砂・細砂・海綿骨針含む	ナデ? 磨耗顕著	縄文、スタレ状圧痕	
9	H15	木移植 (1)	縄文土器	底部	—	7.8	(4.7)	良	褐色	浅黄褐色	礫・粗砂多く含む	ナデ	条痕、網状圧痕	
10	H15	2区 SD06	弥生土器	筒形土器	—	—	(4.5)	良	褐色	黄灰色～黒色	堅緻 細砂・海綿骨針多く含む	ロクロナデ	縷杉文	
11	H16	表採	弥生土器	壺	—	—	(7.7)	良	灰白色	浅黄褐色 ～黒色	粗砂・細砂・海綿骨針含む	ハケのちナデ	ハケ後ミガキ、絵文	
12	H16	3区北壁56層	土師器	甕	19.0	—	(17.0)	良	にぶい黄色	にぶい黄褐色	3.0mm程度の礫少量、海綿骨針含む	ヨコナデ、ハケ、ケズリ後ナデ	ヨコナデ、ハケ	外面全体煤付着
13	H16	表土除去 (河道内)	弥生土器	蓋	—	—	(3.8)	良	浅黄褐色	浅黄褐色 ～灰黄褐色	粗砂・赤色粒・海綿骨針含む	ハケ	ミガキ	
14	H16	表採	土師器	甕	(30.4)	—	(4.5)	良	にぶい褐色	にぶい黄褐色	海綿骨針多く、粗砂・細砂含む	ハケ、ヨコナデ	ナデ、ハケ	残存率1/12以下
15	H16	遺構検出	土師器	高杯	—	10.8	(6.9)	良	にぶい橙色	橙色	1.0mm程度の砂粒少量、海綿骨針含む	ナデ	ハケ後ミガキ	
16	H15	カクラン	須恵器	蓋	—	13.6	(2.8)	良	灰色	灰色	1.0mm程度の砂粒少量含む	ロクロナデ	ロクロナデ	
17	H15	2区カクラン層	須恵器	杯	(11.4)	不明	(5.0)	良	灰色	灰色	細砂少量、海綿骨針含む	ロクロナデ	ロクロナデ	
18	H15	2区カクラン層	須恵器	口縁部	25.8	—	(5.7)	良	灰色	灰色	礫・粗砂・細砂各少量、海綿骨針含む	ヨコナデ	ヨコナデ、沈線2条	内外面自然釉 残存率1/12
19	H15	2区 SD04①	土師器	椀	13.1	6.8	5.2	良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	粗砂・海綿骨針・シャモット含む	ロクロナデ	ロクロナデ (底) 回転糸切り	内外面煤付着
20	H15	1区包 褐色土	土師器	皿	6.9	5.2	1.0	良	橙色	橙色	粗砂少量・海綿骨針含む	ロクロナデ	ロクロナデ (底) 糸切り	
21	H15	表土除去 壁立	土師器	皿	6.2	6.0	1.4	良	にぶい橙色	にぶい橙色	粗砂少量、海綿骨針・シャモット含む	ロクロナデ	ロクロナデ (底) 回転糸切り	
24	H15	2区カクラン層	珠洲焼	搦鉢	(28.5)	—	(5.6)	良	灰色	灰色	0.5mm程度の砂粒多く、海綿骨針含む	ロクロナデ	ロクロナデ	
25	H16	5区 P107	珠洲焼	搦鉢	—	14.6	(3.8)	良	灰色	灰色	粗砂・細砂多く、海綿骨針含む	卸し目	静止糸切り	残存率1/12以下
26	H16	表土除去 (河道内)	瓦	卸し皿	—	19.0	(12.0)	良	にぶい橙色	にぶい橙色	礫・粗砂・細砂少量、海綿骨針含む	施釉 (黒褐) ナデ、卸し目	施釉 (黒褐) ナデ	外底面に工具痕

第2表 昭和50年度、平成14・16年度出土土製品・石製品観察表

図版番号	年度	出土地点	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
22	H16	表土除去	陶鉢	3.55	2.3	2.35	21.5	孔径0.8cm
23	H16	表土除去	陶鉢	2.8	2.6	2.65	18.0	孔径1.4cm、施釉、粗砂並含む、磨耗激しい
27	H16	5区 P109	面戸瓦	4.25	(10.05)	—	—	にぶい橙色、海綿骨針多く・シャモット含む
28	H14	表採	石鉢	10.7	8.55	2.4	279.8	凝灰岩
29	H14	表採	剥片	6.4	6.65	1.8	50.3	頁岩
30	H14	表採	石鉢	3.4	1.3	0.85	3.16	頁岩か?
31	H14	表採	剥片	4.9	0.9	1.05	6.77	頁岩か?
88	S50	AT・耕土	土鉢	2.7	1.8	1.9	10.0	孔径0.5cm
144	S50	BT	砥石	16.4	8.3	4.7	693.6	砂岩

第3表 昭和50年度出土土器観察表

図版番号	出土地点	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	焼成	色調	胎土	調整内面	調整外面	備考	珠洲市史 図版番号
32	表採	弥生土器	甕	20.2	—	—	良好	にぶい橙色	砂粒少	ヨコナデ、ハケ	平行沈線2条、ヨコナデ、ハケ	外面煤付着	第6図-1
33	AT	弥生土器	甕	17.5	—	—	良好	にぶい黄褐色	砂粒少	ハケ状具による調整	平行沈線、ハケ		第6図-2
34	AT	弥生土器	甕	17.3	—	—	良好	にぶい黄褐色	砂粒少	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	外面煤付着	第6図-3
35	AT	弥生土器	甕	14.0	—	—	良好	灰黄褐色	砂粒少	ナデ、ケズリ	平行沈線2条	外面煤付着	第6図-4
36	AT	弥生土器	甕	—	—	—	良好	灰黄褐色	砂粒少	ヨコナデ、ケズリ	平行沈線3条、ヨコナデ、ハケ		第6図-5
37	AT	弥生土器	甕	14.7	—	—	良好	灰黄褐色	砂粒少	ナデ	平行沈線6条		第6図-6
38	AT・耕土	弥生土器	甕	15.5	—	—	やや良好	橙色	砂粒多	ヨコナデ、ハケ、ケズリ	ヨコナデ、ハケ		第6図-7
39	表採	弥生土器	甕	16.3	—	—	良好	明赤褐色	砂粒少	ハケ	ヨコナデ、ハケ	外面煤付着	第6図-8
40	表採	弥生土器	不明	15.0	—	—	良好	にぶい黄褐色	砂粒少	全面ヘラミガキ	全面ヘラミガキ		第6図-9
41	AT	弥生土器	甕	12.2	—	—	良好	にぶい橙色	砂粒少	ハケ、ケズリ	ハケ	外面煤付着	第6図-10
42	AT・表採	弥生土器	甕	23.3	—	—	良好	暗灰黄色	砂粒少	ヨコナデ、ハケ、ケズリ	擬凹線、ヨコナデ		第6図-11
43	AT	弥生土器	甕	—	—	—	良好	橙色	砂粒多	ナデ・ケズリ	擬凹線		第6図-12
44	AT・耕土	弥生土器	甕	—	—	—	良好	橙色	砂粒少	ヨコナデ、ハケ、ケズリ	ヨコナデ	外面煤付着	第6図-13
45	AT・耕土	弥生土器	甕	21.3	—	—	良好	にぶい黄褐色	砂粒多	ヨコナデ	擬凹線5条、ヨコナデ	外面煤付着	第6図-14
46	AT	弥生土器	甕	15.5	—	—	良好	にぶい橙色	砂粒多	ナデ	ナデ、ハケ		第6図-15
47	AT	土師器	甕	—	—	—	良好	橙色	砂粒少	ナデ	ハケ		第7図-16
48	AT	土師器	甕	12.2	—	—	不良	にぶい橙色	砂粒多	ハケ後ミガキ	ミガキ、ナデ	壺か?	第7図-17
49	AT・耕土	土師器	甕	18.7	—	—	良好	にぶい赤褐色	砂粒少	ミガキ	ミガキ	内外面赤彩	第7図-18
50	AT	土師器	甕	18.8	—	—	良好	浅黄色	精緻	ミガキ	ミガキ		第7図-19
51	AT	弥生土器	甕	14.2	—	—	良好	にぶい橙色	砂粒多	ヨコナデ	ヨコナデ、ハケ		第7図-20
52	AT	弥生土器	甕	—	—	—	良好	にぶい黄褐色	砂粒少	ヨコナデ	ヨコナデ		第7図-21
53	AT	弥生土器	甕	18.6	—	—	良好	にぶい橙色	砂粒多	ナデ、ケズリ	細かいクシ状具 (歯数10) 調整、ナデ後ハケ	外面煤付着	第7図-22

第2節 遺物

図版番号	出土地点	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	焼成	色調	胎土	調整内面	調整外面	備考	珠洲市史 図版番号
54	AT	土師器	不明	22.2	—	—	良好	にぶい黄褐色	砂粒少	ミガキ	タテミガキ	高杯または器台	第7図-23
55	AT	土師器	不明	17.0	—	—	良好	にぶい黄褐色	精緻	ミガキ	高杯か		第7図-24
56	AT	土師器	不明	—	—	—	良好	にぶい黄褐色	精緻	ミガキ	ミガキ	高杯または器台	第7図-25
57	AT	土師器	壺	—	—	—	良好	にぶい黄褐色	精緻	ナデ	ナデ、ハケ		第7図-26
58	BT・耕土	土師器	不明	—	—	—	良好	赤褐色	精緻	ミガキ	ハケ後ミガキ	壺または器台 内外面赤彩	第7図-27
59	表採	土師器	高杯	—	—	—	良好	褐色	精緻	ヨコミガキ	ヨコミガキ		第7図-28
60	表採	土師器	不明	—	13.2	—	良好	にぶい黄褐色	精緻	ナデ	ハケ後ナデ	高杯または器台	第7図-29
61	AT	土師器	不明	—	13.6	—	良好	にぶい黄褐色	精緻	ナデ	ハケ後ミガキ	高杯または器台	第7図-30
62	表採	土師器	不明	—	14.9	—	良好	明赤褐色	精緻	ナデ、ハケ	ハケ後ミガキ	高杯または器台	第8図-31
63	AT・耕土	土師器	不明	—	17.4	—	良好	にぶい黄褐色	精緻	ハケ、ナデ	ミガキ、ナデ	高杯または器台	第8図-32
64	表採	土師器	不明	—	—	—	やや良好	にぶい黄褐色	砂粒少	不明	ミガキ	高杯または器台	第8図-33
65	表採	土師器	器台	—	—	—	やや良好	にぶい黄褐色	砂粒少	ケズリ	ハケ後タテミガキ		第8図-34
66	AT・耕土	土師器	器台	—	—	—	良好	にぶい黄褐色	精緻	ミガキ、ケズリ	ミガキ		第8図-35
67	AT	土師器	椀	10.8	—	—	—	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ	内面黒色	第8図-36
68	AT	土師器	椀	12.7	—	—	良好	にぶい褐色	砂粒少	ミガキ	ヨコナデ、ケズリ	内面黒色	第8図-37
69	AT	土師器	椀	16.2	—	—	良好	にぶい褐色	砂粒少	ハケ後ケズリ	ハケ		第8図-38
70	表採	土師器	底部	—	—	—	—	—	—	—	—		第8図-39
71	表採	土師器	底部	—	4.3	—	良好	暗灰黄色	粗粒多	指ナデ	ハケ	内面煤付着	第8図-40
72	AT	土師器	底部	—	4.2	—	良好	にぶい黄褐色	砂粒少	指ナデ	ハケ	外面煤付着	第8図-41
73	表採	土師器	底部	—	3.9	—	良好	にぶい黄褐色	粗粒	ミガキ	ミガキ	外面赤彩	第8図-42
74	AT・耕土	土師器	底部	—	5.5	—	良好	にぶい黄褐色	砂粒多	ナデ	ナデ		第8図-43
75	AT・耕土	土師器	底部	—	5.5	—	良好	にぶい褐色	砂粒多	ハケ	不明		第8図-44
76	AT	土師器	底部	—	6.6	—	良好	にぶい褐色	砂粒	不明	ケズリ		第8図-45
77	AT	土師器	杯	13.3	—	—	良好	淡茶褐色	緻密	クシ調整痕	ナデ	高台付きか	第9図-1
78	AT	土師器	底部	—	7.7	—	良好	茶褐色	砂粒	黒色研磨	ナデ	塊形か、貼り付高台	第9図-2
79	AT	土師器	椀	—	3.7	—	やや良好	茶褐色	緻密	ナデ	ナデ		第9図-3
80	BT	土師器	底部	—	—	—	良好	赤褐色	砂粒少	ミガキ	ナデ	塊か	第9図-4
81	AT	土師器	底部	—	13.5	—	良好	淡茶褐色	緻密	黒色研磨	不明	鉢か、貼り付高台	第9図-5
82	AT	土師器	底部	—	10.0	—	良好	黒灰色	砂粒少	ナデ	ナデ		第9図-6
83	AT	土師器	杯	9.8	4.2	2.8	やや不良	黄褐色	砂粒少	ナデ	ナデ	回転系切り	第9図-7
84	AT	土師器	底部	—	5.2	—	やや不良	淡茶褐色	砂粒多	不明	回転系切底		第9図-8
85	AT	土師器	底部	—	6.5	—	やや不良	淡茶褐色	砂粒	黒色研磨	不明	皿?	第9図-9
86	AT	土師器	杯	—	4.7	—	やや不良	淡茶褐色	砂粒	黒色研磨	回転系切り		第9図-10
88	AT・耕土	土師器	杯	—	4.5	—	やや不良	茶褐色	緻密	不明	回転系切り		第9図-11
89	AT	土師器	杯	16.0	—	—	良好	茶褐色	微砂粒	ナデ	ナデ		第9図-12
90	AT	土師器	杯	13.4	—	—	良好	茶褐色	砂粒多	黒色研磨	不明	口唇付近に油脂付着	第9図-13
91	AT	須恵器	杯	14.1	—	—	良好	黒色	緻密	黒色研磨	不明		第9図-14
92	AT	須恵器	壺	28.5	—	—	良好	にぶい黄色	緻密	ナデ	ナデ	内外面に緑色自然釉	第10図-1
93	AT	須恵器	壺	22.2	—	—	良好	灰色	緻密	ナデ	ナデ	口縁部-頸部内面自然釉	第10図-2
94	AT	須恵器	壺	—	—	—	良好	灰色	微砂粒	ナデ	ナデ	頸部くびれ部径11.5cm 外面黒色自然釉	第10図-3
95	AT・攪乱	須恵器	不明	14.4	—	—	良好	暗灰黄色	緻密	ナデ	ナデ	鉢形か	第10図-4
96	AT・耕土	須恵器	蓋	11.0	—	—	良好	灰褐色	微砂粒	ナデ	ナデ	外面黒色釉	第10図-5
97	AT	須恵器	蓋	—	—	—	良好	灰色	緻密	ナデ	ナデ	ナデ、天井部外面ヘラケズリ	第10図-6
98	AT	須恵器	蓋	15.3	—	—	やや不良	灰黄色	砂粒	ナデ	不明	天井部内面ヘラ記号	第10図-7
99	AT	須恵器	蓋	15.0	—	—	良好	暗灰色	精緻	ナデ	ナデ		第10図-8
100	AT	須恵器	蓋	15.7	—	—	良好	灰色	緻密	ナデ	ナデ	ヘラケズリ	第10図-9
101	AT	須恵器	蓋	—	—	—	良好	灰色	微砂粒	ナデ	ナデ	紐径3.7cm	第10図-10
102	AT	須恵器	杯	12.3	10.0	3.5	良好	黄灰色	緻密	ナデ	ナデ、ヘラ切り		第10図-11
103	AT・耕土	須恵器	杯	12.1	8.7	3.5	不良	灰黄色	砂粒少	ナデ、ヘラ切り	ナデ、ヘラ切り		第10図-12
104	AT・耕土	須恵器	杯	12.3	8.5	3.3	不良	灰褐色	砂粒少	ナデ	ナデ、ヘラ切り	生焼け	第10図-13
105	AT	須恵器	杯	12.3	6.5	2.7	不良	灰白色	微砂粒	ナデ	ナデ、ヘラ切り	口縁部内外面煤付着	第10図-14
106	AT	須恵器	杯	11.3	7.3	2.9	良好	灰白色	微砂粒	ナデ、ヘラ切り	ナデ、ヘラ切り		第10図-15
107	AT	須恵器	杯	12.0	8.5	3.1	不良	灰褐色	砂粒	ナデ	ナデ		第10図-16
108	AT	須恵器	杯	14.5	8.6	3.1	不良	灰白色	砂粒多	ナデ	ナデ、回転ヘラ切り	生焼け	第10図-17
109	AT	須恵器	杯	13.8	—	—	不良	茶褐色	精緻	ナデ	ナデ	土師器か	第10図-18
110	AT・耕土	須恵器	杯	13.7	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ		第10図-19
111	AT・攪乱	須恵器	杯	16.3	—	—	良好	暗灰黄色	砂粒少	ナデ	ナデ		第10図-20
112	AT	須恵器	杯	—	8.1	—	良好	黄灰色	砂粒多	ナデ	ナデ、ヘラ切り	貼り付高台	第10図-21
113	AT・攪乱	須恵器	杯	—	8.4	—	良好	灰色	精緻	ナデ	ナデ、ヘラ切り		第11図-22
114	AT	須恵器	杯	—	7.8	—	良好	灰色	精緻	ナデ	ナデ、ヘラケズリ	貼り付高台 底部外面ヘラ記号	第11図-23
115	AT・攪乱	須恵器	杯	—	7.0	—	やや良好	灰黄色	精緻	ナデ	ナデ	貼り付高台	第11図-24
116	AT	須恵器	底部	—	7.5	—	良好	灰白色	砂粒多	ナデ	ナデ、ヘラ切り	輪積痕顯著	第11図-26
117	AT・攪乱	須恵器	底部	—	5.5	—	良好	黄灰色	精緻	ナデ	ナデ	内外面に自然釉、瓶形か 外面絵文?	第11図-27
118	BT・耕土	須恵器	鉢	15.9	—	—	良好	灰色	精緻	ナデ	ナデ	胴部最大径16.1cm 外面淡緑色自然釉	第11図-25
119		珠洲焼	播鉢	—	—	—	—	—	—	—	—		第11図-28
120		珠洲焼	播鉢	—	—	—	—	—	—	—	—		第11図-29
121		珠洲焼	播鉢	—	—	—	—	—	—	—	—		第11図-30
122		珠洲焼	播鉢	—	—	—	—	—	—	—	—		第11図-31
123	BT・耕土	土師器	製塩土器	14.4	—	—	良好	にぶい黄褐色	精緻	ハケ	ハケ		第12図-1
124	BT・耕土	土師器	製塩土器	14.6	—	—	良好	にぶい黄褐色	砂粒多	ナデ	ケズリ		第12図-2
125	BT	土師器	製塩土器	15.8	—	—	良好	灰黄褐色	砂粒少	ハケ後ナデ	ナデ		第12図-3
126	BT	土師器	製塩土器	13.7	—	—	やや良好	にぶい黄褐色	砂粒少	ナデ	ナデ		第12図-4
127	BT	土師器	製塩土器	12.8	—	—	良好	にぶい黄褐色	砂粒少	ハケ後ナデ	ナデ		第12図-5
128	BT	土師器	製塩土器	17.2	—	—	良好	にぶい黄褐色	砂粒少	ナデ	ナデ		第12図-6
129	AT	土師器	製塩土器	12.8	—	—	やや良好	浅黄褐色	砂粒少	籠状工具によるナデ	ナデ	口縁部内面煤付着	第12図-7
130	BT・耕土	土師器	製塩土器	—	—	—	良好	にぶい黄褐色	砂粒多	ハケ後ナデ	ナデ	頸部内面煤付着	第12図-8
131	AT	土師器	製塩土器	11.2	—	—	良好	にぶい黄褐色	精緻	ナデ	ナデ	口縁部ミガキ?	第12図-9
132	AT	土師器	製塩土器	—	1.6	—	良好	褐色	精緻	ナデ	ナデ	指押さえ	第12図-10
133	AT	土師器	製塩土器	—	—	—	やや良好	にぶい黄褐色	精緻	ナデ	ナデ		第12図-11
134	AT・耕土	土師器	製塩土器	—	—	—	やや良好	黄褐色	精緻	ナデ	ナデ		第12図-12
135	AT・耕土	土師器	製塩土器	—	—	—	やや良好	にぶい黄褐色	精緻	ナデ	ナデ	未調整	第12図-13
136	AT・耕土	土師器	製塩土器	—	—	—	やや良好	浅黄褐色	精緻	不明	ナデ		第12図-14
137	AT	土師器	製塩土器	—	2.6	—	やや良好	にぶい黄褐色	精緻	籠状工具で押える	ケズリ		第12図-15
138	AT	土師器	製塩土器	—	2.6	—	やや良好	にぶい黄褐色	精緻	粗いナデ	指押え		第12図-16
139	表採	土師器	製塩土器	—	5.2	—	良好	褐色	砂粒少	籠状工具によるナデ	未調整	被熱著しい	第12図-17
140	AT	土師器	製塩土器	—	—	—	良好	褐色	砂粒多	ナデ	ナデ	被熱著しい	第12図-18
141	AT	土師器	製塩土器	—	—	—	良好	にぶい黄褐色	精緻	ナデ	ケズリ?		第12図-19
142	BT	縄文土器	深鉢	—	—	—	良好	明褐色	砂粒多	不明	不明		第5図-1
143	AT	縄文土器	深鉢	—	—	—	良好	明褐色	砂粒多	不明	不明		第5図-2

第5章 まとめ

検出遺構の検討 平成15年度調査区で検出した溝は流路の方向から2種類に分けられる。溝底の傾斜から判断して、SD01～04・06・08・09は北東→南西で、SD05・07・10は東→西へと深くなる。当初は畝溝と想定していたが、深くてしっかりとした掘方をもつものも少なくない。だが、遺構の性格を捉えるまでには至らなかった。切合いによる前後関係はSD03・09→SD04・05・07・08→SD06の順となる。平成16年度調査区で検出した土坑(SK01・02・04・07)は、出土した骨片と調査区壁の土層から判断して中・近世の土坑墓と考える。出土した骨片は細片であり、種類の特定には至らなかった。上端の形状は隅丸方形で、やや凹凸のある平坦気味の坑底に仕上げられる。SK07の断面から判断して、壁面はまっすぐ上方に立ち上がるものと想定できる。遺構の形状に何らかの規格性を窺える。

集落域と変遷 本遺跡は平成15・16年度調査以外にも、昭和50年度に石川考古学研究会と金沢大学考古学研究会が主体となって発掘調査が行われている。それらの成果を加味しつつ説明を加えていく。

昭和50年度の調査では、調査区土層で観察した厚い砂層の堆積と製塩土器の出土を根拠に遺跡が往時、海岸砂丘上に立地していたとの見解がなされ、それは平成15・16年度の調査でも確認できた。集落跡の範囲であるが、平成15・16年度の遺構検出状況から判断して、現粟津集落の下に集落跡が複合しているというよりは、むしろ遺跡の立地する旧海岸砂丘上に展開していたものとする。検出した時期不詳の小穴群全てに柱穴・攪乱穴の区別をすることは困難であったとしても、全て攪乱穴とするには無理があり、したがって柱穴の可能性を含めておく方が妥当と考えた。

平成15・16年度調査の検出面で捉えた遺構から出土した遺物は僅少であった。調査区壁土層を観察した結果、耕土から下の層は検出面に至るまで時期の異なる遺物を包含しており、層序にかなりの混乱が見られた。これは長期間にわたって厚い粗砂層が幾度となく堆積したことによるものと考えられ、各層が生活面を構成していたかどうかの厳密な判断はつかなかった。つまり本遺跡で出土した遺物を層位によって時期推定することは容易でなく、したがって出土した遺物を基に遺跡の変遷をたどる方が妥当と判断した。以下の()内の数字は遺物の報告番号を示す。

縄文時代では後期の深鉢(1～9)が出土している。弥生～古墳時代では弥生時代前期の筒形土器(10)と中～後期の壺(11)、後期～古墳時代前期の甕(12・14、32～53)・蓋(13)・壺(57)・高杯(54～56、59～63)・器台(58・65・66)・底部(70～76)が出土した。古墳時代中期～末期では土師器の高杯(15)や須恵器の蓋(16・96・97)が出土している。古代では奈良時代～平安時代前半の杯(102～104、106・107・112～115)、平安時代後半では土師器の椀(19・78・79、83～87)、須恵器の甕(92)・壺(93・94)・蓋(98～101)・杯(105・108～111)の他、製塩土器(123～141)が出土した。中世では室町時代の珠洲焼の播鉢(119～122)が出土している。小片で未図化だが、近世では伊万里の碗・皿が出土し、近・現代では卸し皿(26)や産地不明の陶磁器が出土した。

以上、縄文時代後期から現代に至るまで長期間にわたり本遺跡は営まれてきたことが窺える。集落跡としての盛期は遺物の出土量から判断して、弥生時代後期～古墳時代前期と平安時代後半である。

報告書抄録

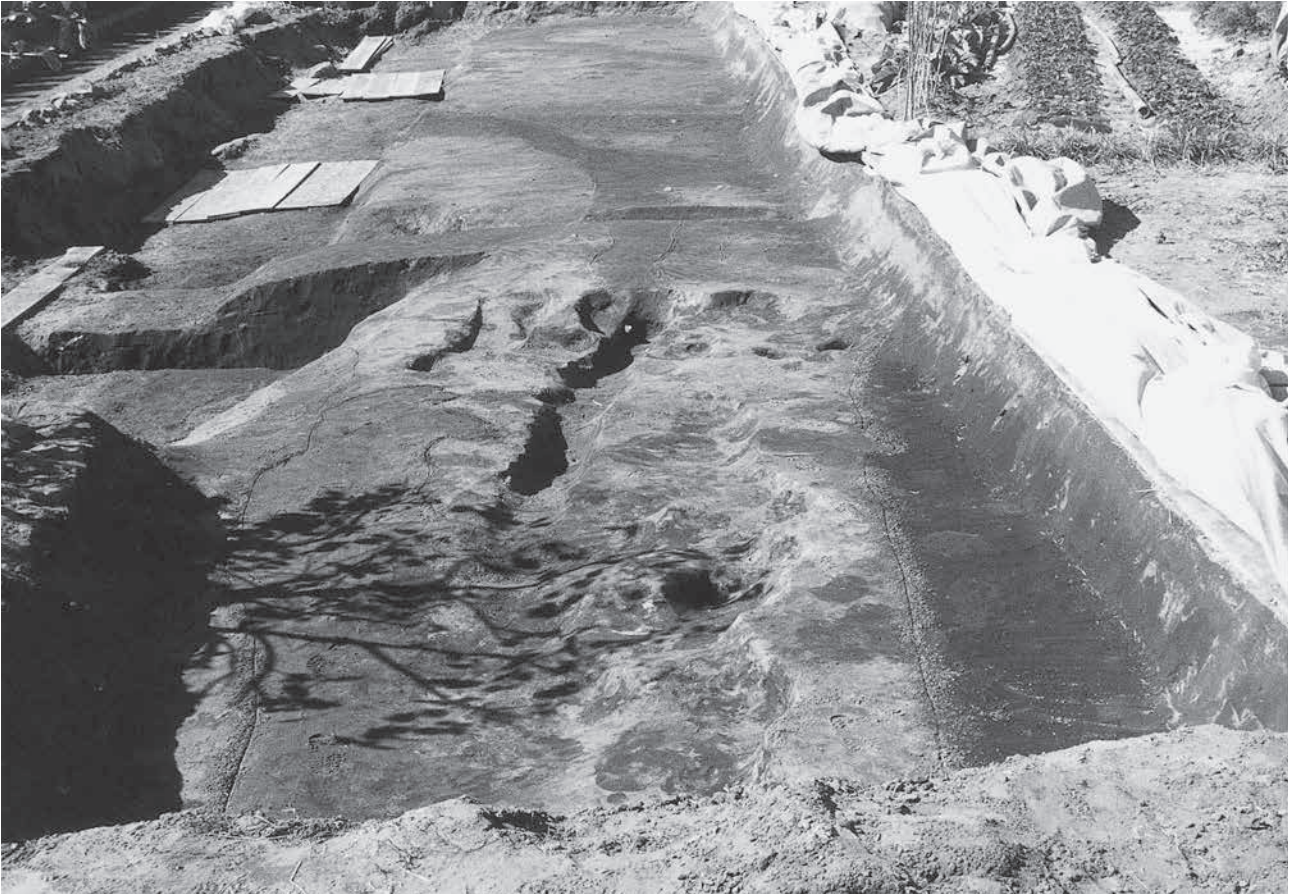
ふりがな	すずし あわづかんじゃばたけいせき							
書名	珠洲市 粟津カンジャバタケ遺跡							
副書名	県営ほ場整備事業（粟津川地区）に係る埋蔵文化財調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	安中哲徳、谷内明央、森由佳、稲垣淳平							
編集機関	財団法人石川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1 TEL 076-229-4477							
発行機関	石川県教育委員会・財団法人石川県埋蔵文化財センター							
発行年月日	2006年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 (新)	東経 (新)	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
あわづ 粟津カンジャ バタケ遺跡	いしかわけんす 石川県珠 洲市三崎 すずし まちあわづ 町粟津	172057	05171	37度	137度	20031014 ～ 20031107	200㎡	県営ほ場整 備事業(粟 津川地区)
				28分 54秒	20分 9秒	20040427 ～ 20040531	580㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
粟津カンジャ バタケ遺跡	集落	縄文	小穴、溝		縄文土器、石器		縄文時代の集落跡。	
	集落	弥生～ 古墳	掘立柱建物柱穴、土坑、 小穴、溝		弥生土器、土師 器		弥生時代～古墳 時代にかけての 集落跡。	
	集落	古代～ 中世	掘立柱建物柱穴、土坑、 小穴、溝		土師器、須恵器、 珠洲焼、鉄製品		古代～中世にか けての集落跡。	
	墓地	中世～ 近世	溝、土坑墓		土師器、珠洲焼、 陶磁器		中世～近世の墓 地跡。	
要 約	<p>遺跡は河口から約400m離れた川岸に位置し、標高1.8m～2.4m代を測る砂丘上に立地している。旧河道のベースとなる砂層上で検出された小穴や溝から、縄文時代後期の土器が出土しているが、建物跡は確認されていない。</p> <p>また、弥生時代後期～古墳時代前期にかけての掘立柱建物柱穴や土坑、溝等から弥生土器や土師器等が出土しているほか、古代～中世の掘立柱建物柱穴や土坑、溝等も多数検出され、土師器、須恵器、珠洲焼等が出土していることから、周辺に集落が広がっていたと考えられる。他に、中世～近世の方形の土坑が検出されており、土坑墓と考えている。</p>							



遺構検出状況 (西から)



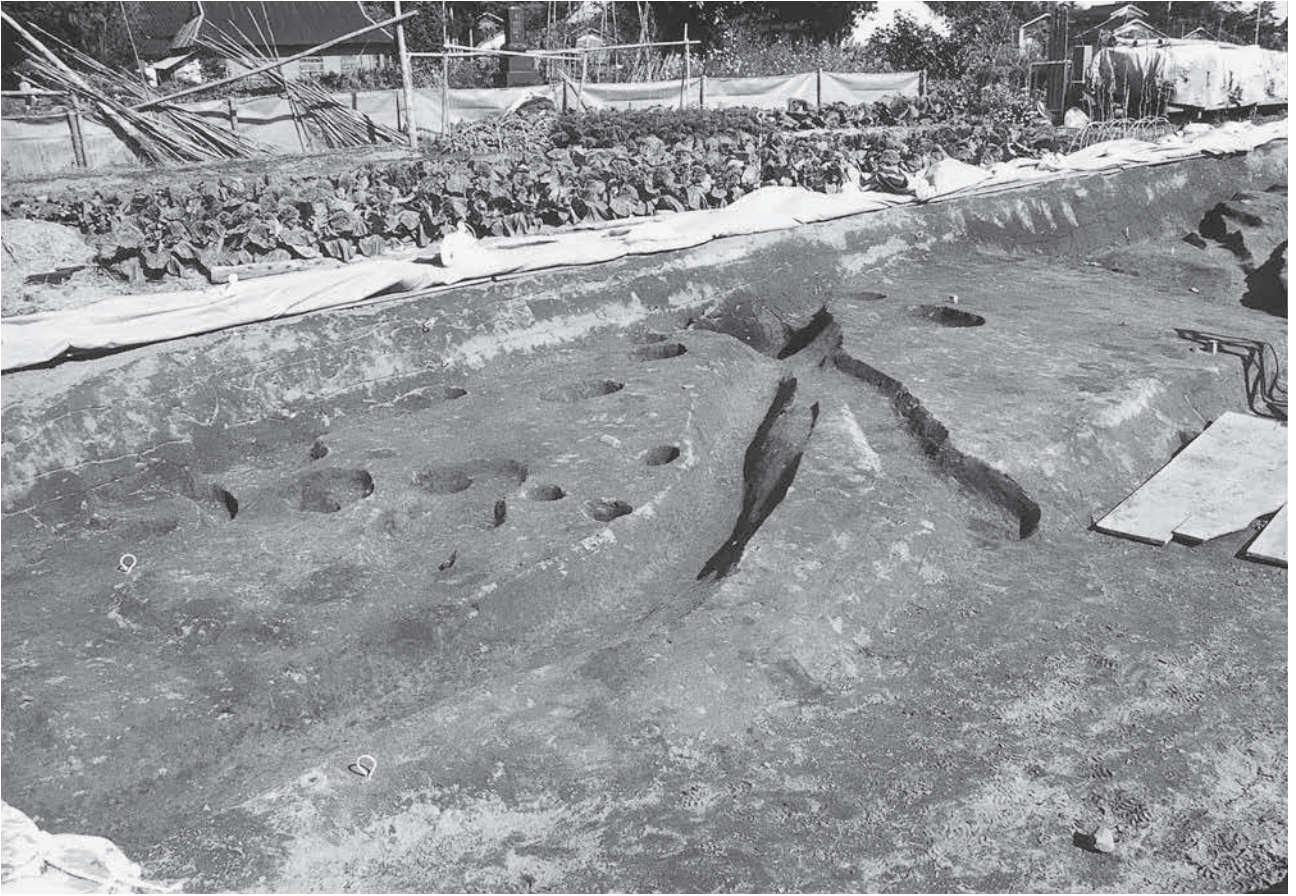
遺跡完掘状況 (西から)



遺構検出状況 (東から)



遺跡完掘状況 (東から)

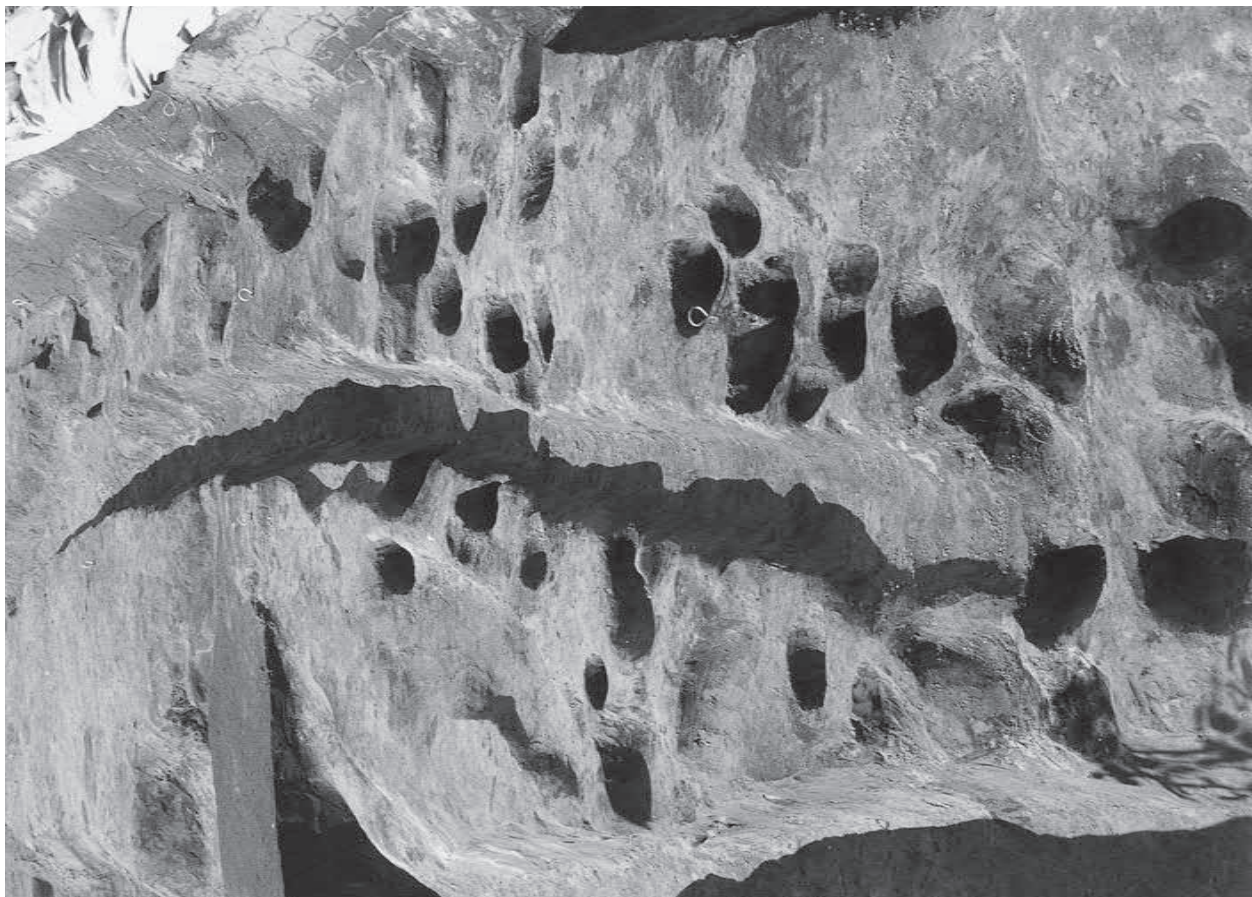


SD01・02完掘状況 (南西から)



SD07完掘状況 (東から)

図版4 (平成15年度調査区④)



SD05完掘状況 (東から)



SD10完掘状況 (東から)



調査区北壁土層断面 (南東から)



SD03~09検出状況 (東から)



SD04遺物出土状況 (北から)



SK01完掘状況 (北から)



SK01土層断面 (南から)

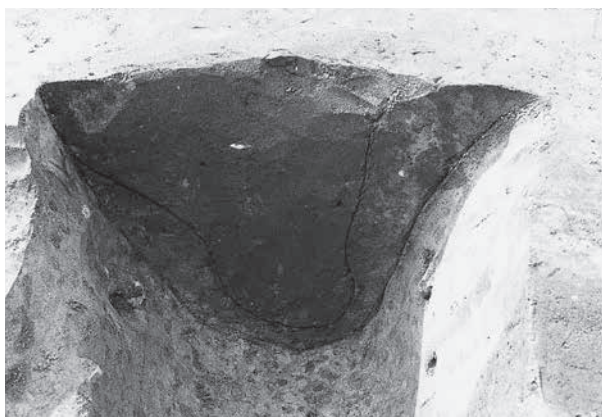
図版 6 (平成15年度調査区⑥)



SD01・02土層断面 (南から)



SD05-06切合い土層断面 (西から)



SD05土層断面 (西から)



調査区北壁土層断面① (南から)



調査区北壁土層断面② (南から)



調査区北壁土層断面③ (南から)



調査区北壁土層断面④ (南から)



調査区北壁土層断面⑤ (南から)



遺跡完掘状況 (東から)



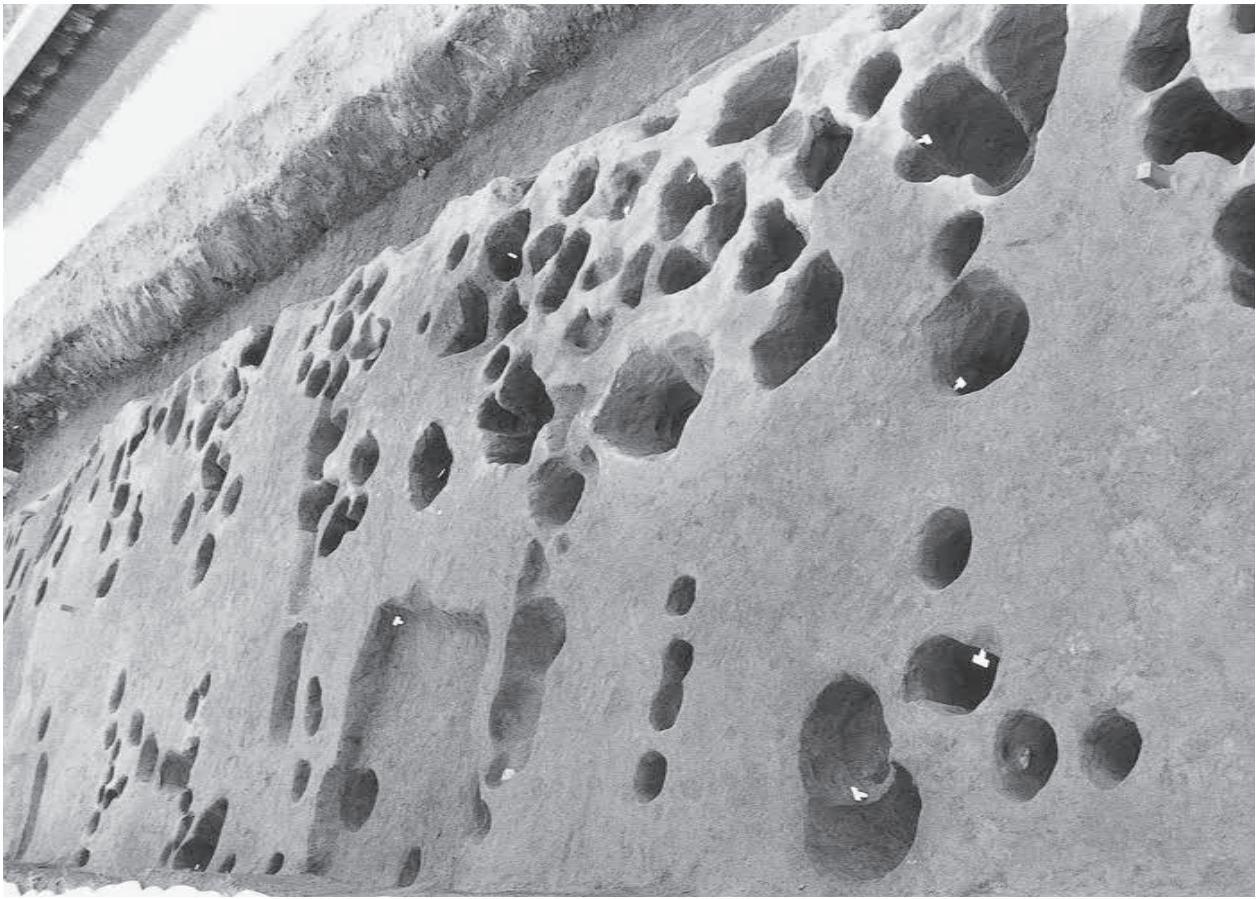
遺跡完掘状況 (南西から)



1区完掘状況 (西から)



遺跡完掘状況 (西から)



3区完掘状況 (西から)



2区完掘状況 (西から)



5～7区完掘状況 (西から)



4区完掘状況 (西から)



遺構検出状況 (西から)



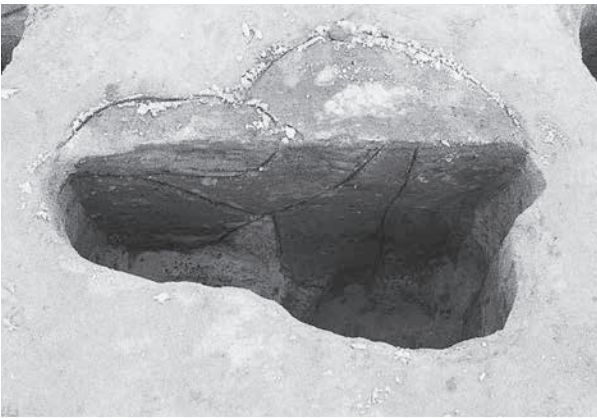
P01土層断面 (北西から)



P02土層断面 (東から)



P04土層断面 (南西から)



P05土層断面 (西から)



P06土層断面 (北西から)



P07土層断面 (北から)



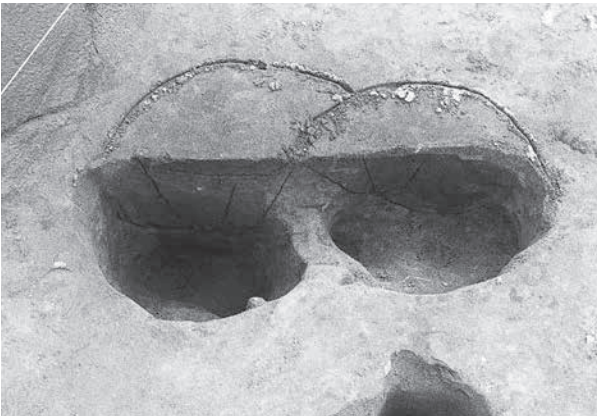
P08土層断面 (北東から)



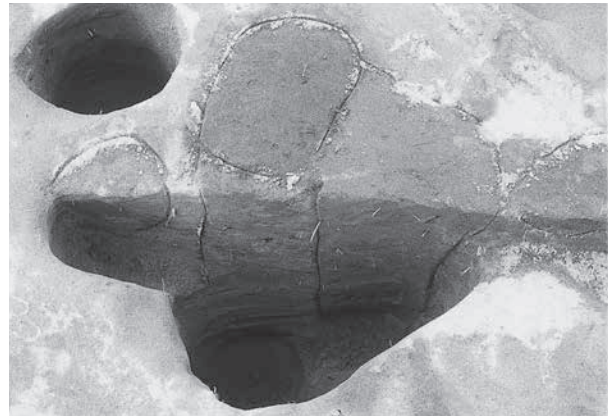
P09・46土層断面 (北東から)



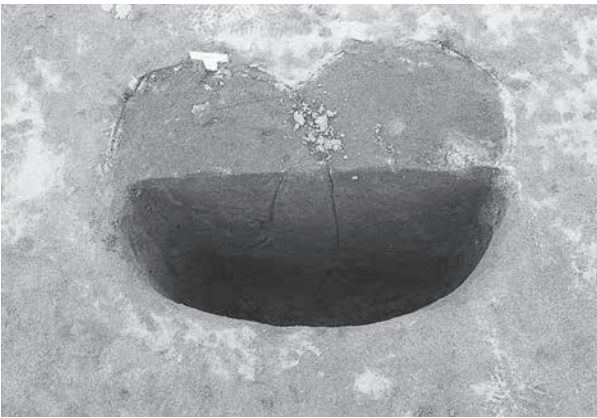
P09・46完掘状況 (北から)



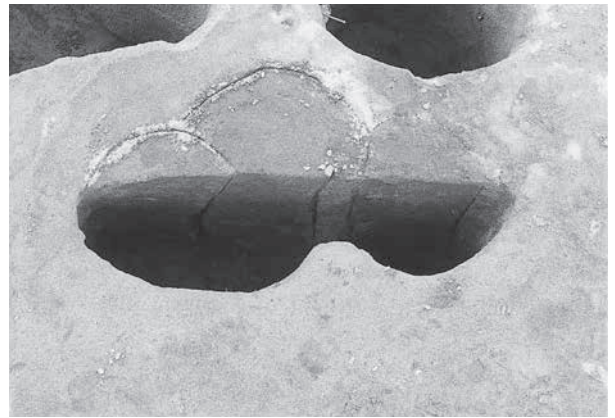
P10土層断面 (南西から)



P11土層断面 (北から)



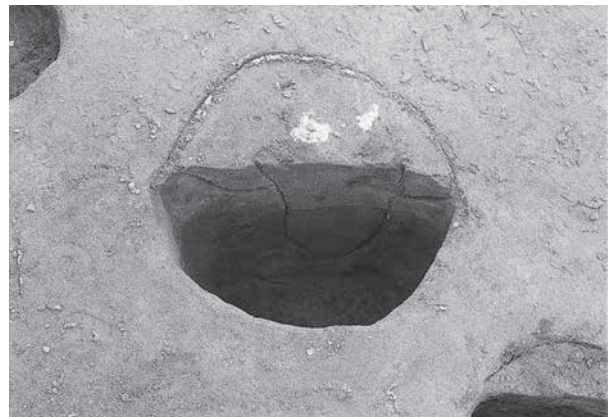
P12土層断面 (北東から)



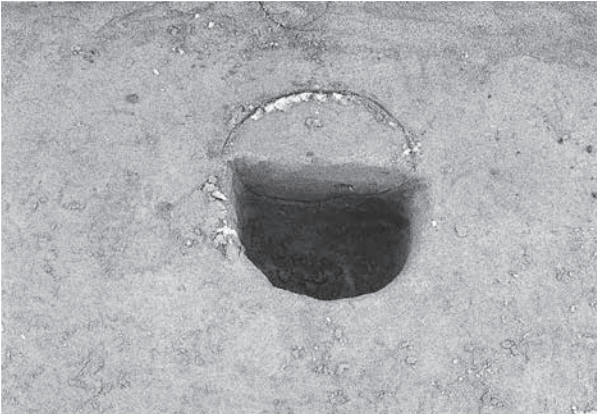
P13土層断面 (北から)



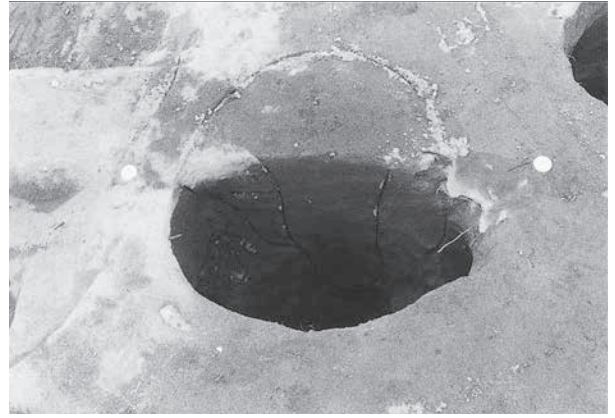
P14土層断面 (北から)



P16土層断面 (西から)



P17土層断面 (西から)



P35土層断面 (東から)



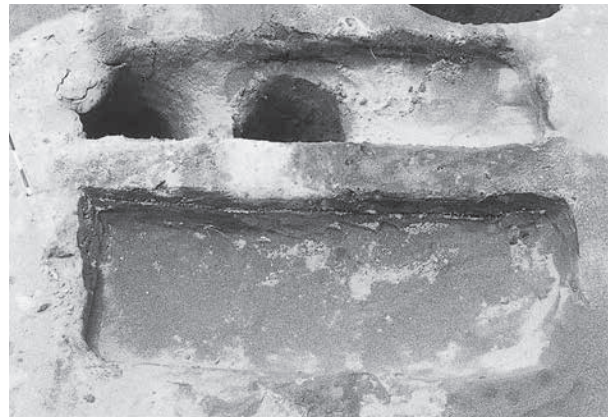
SK01検出状況 (南から)



SK01土層断面 (東から)



SK02検出状況 (西から)



SK02土層断面 (東から)



SK01・02掘削作業風景 (東から)



SK03土層断面 (西から)

図版14 (平成16年度調査区⑧)



SX01土層断面 (西から)



SX03-SK05-SD01切合い土層断面 (西から)



SX03・SD01周辺完掘状況 (北西から)



SX02土層断面 (西から)



調査区北壁土層断面① (南から)



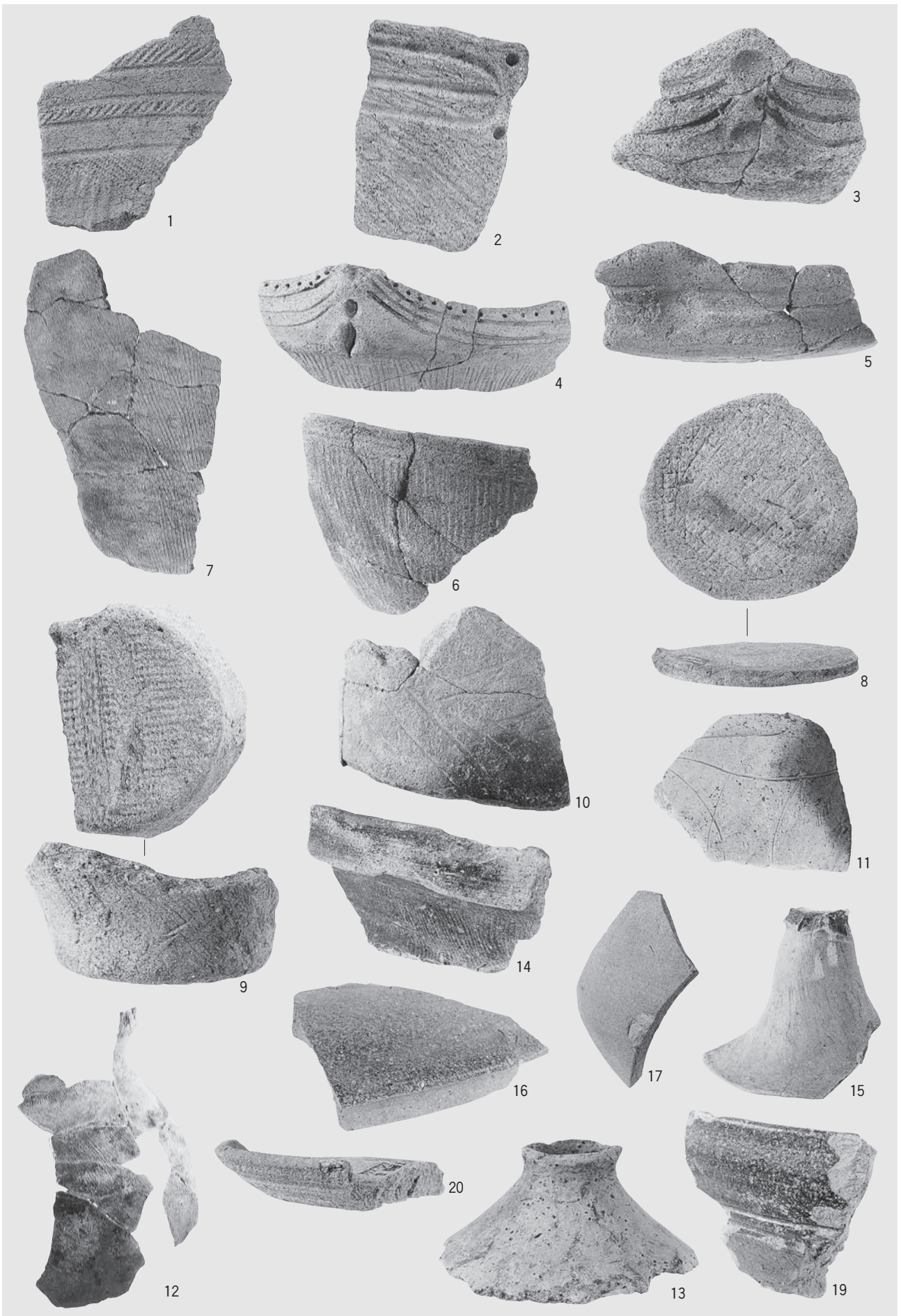
調査区北壁土層断面② (南から)



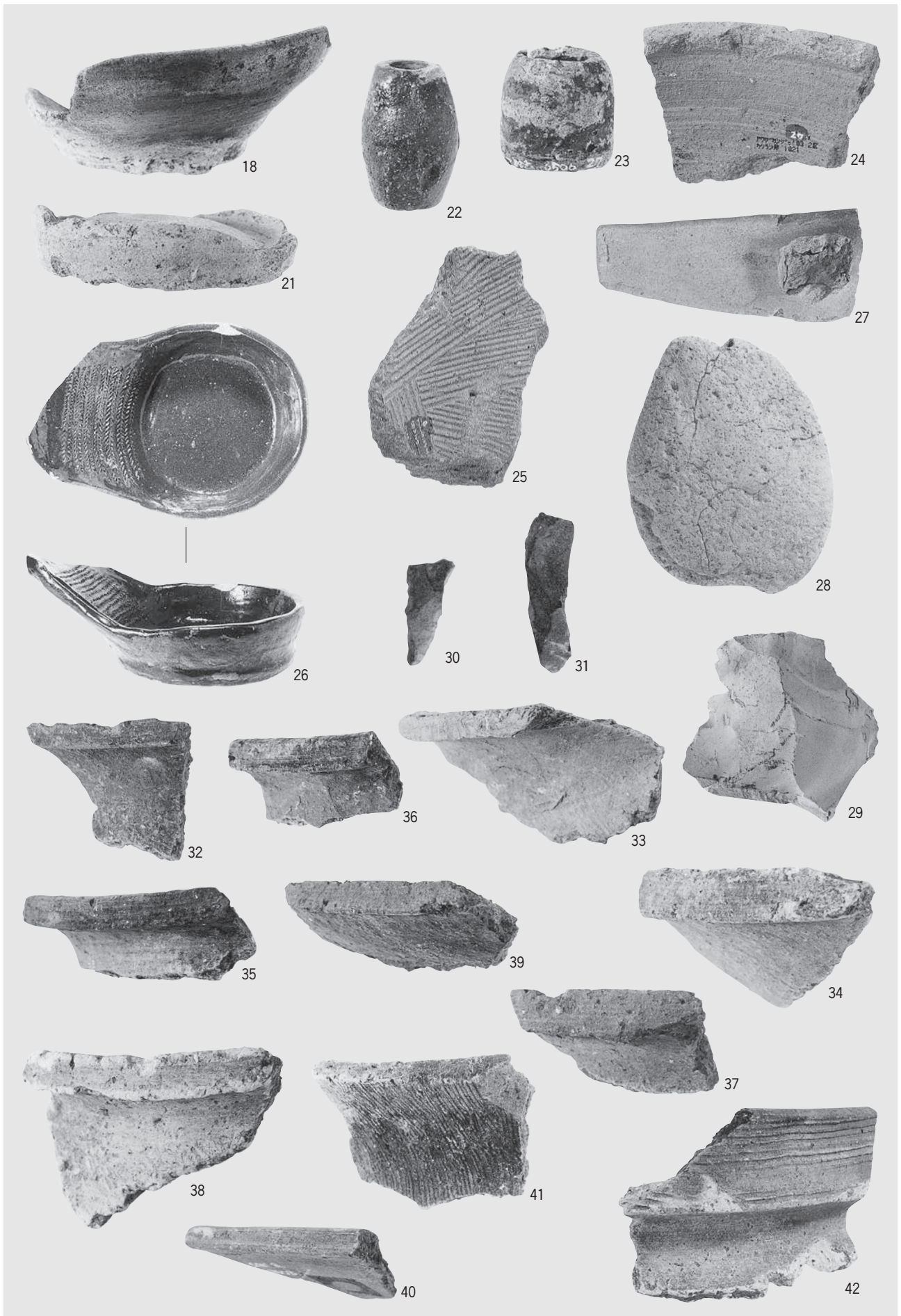
調査区北壁土層断面③ (南から)

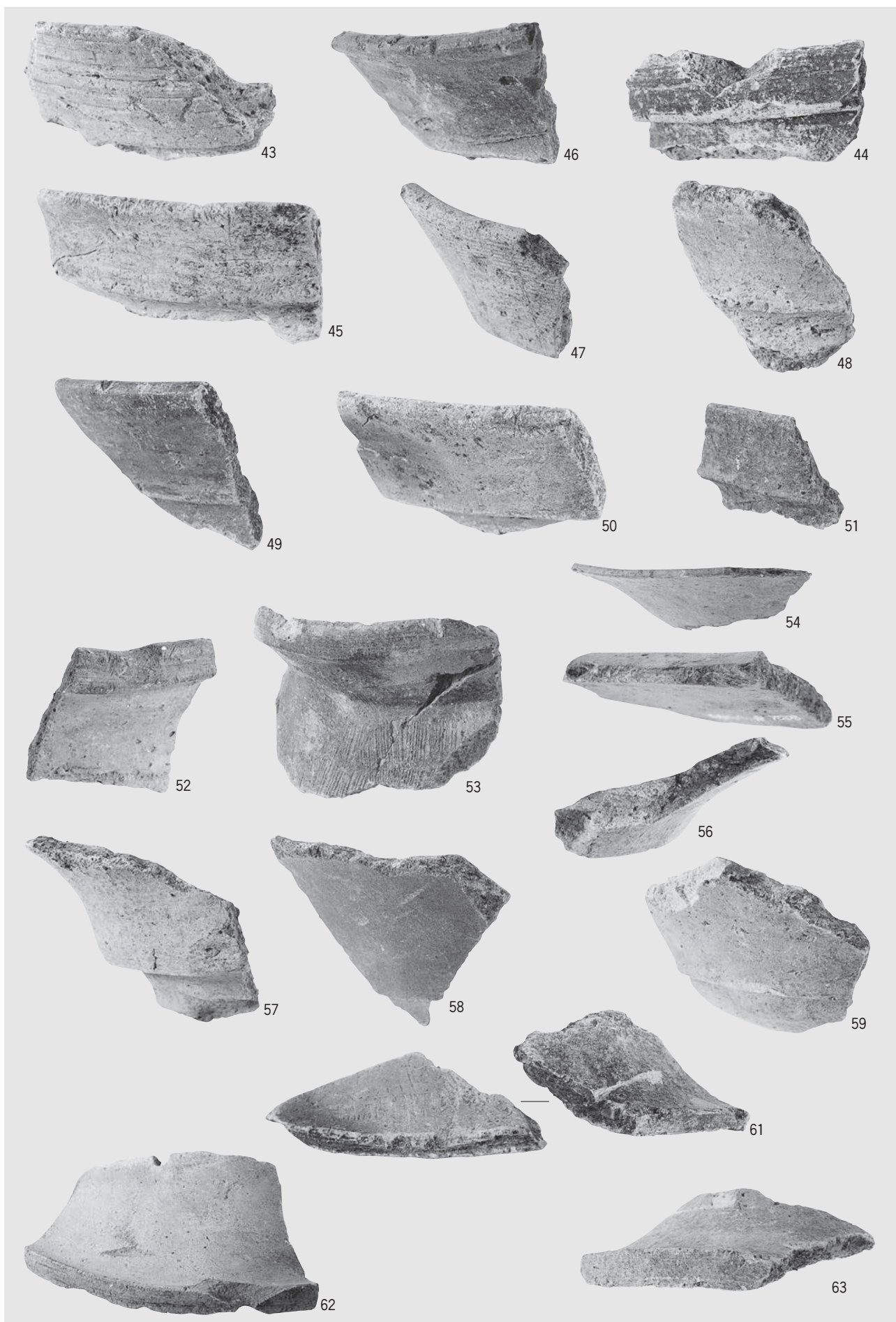


調査区北壁土層断面④ (南から)

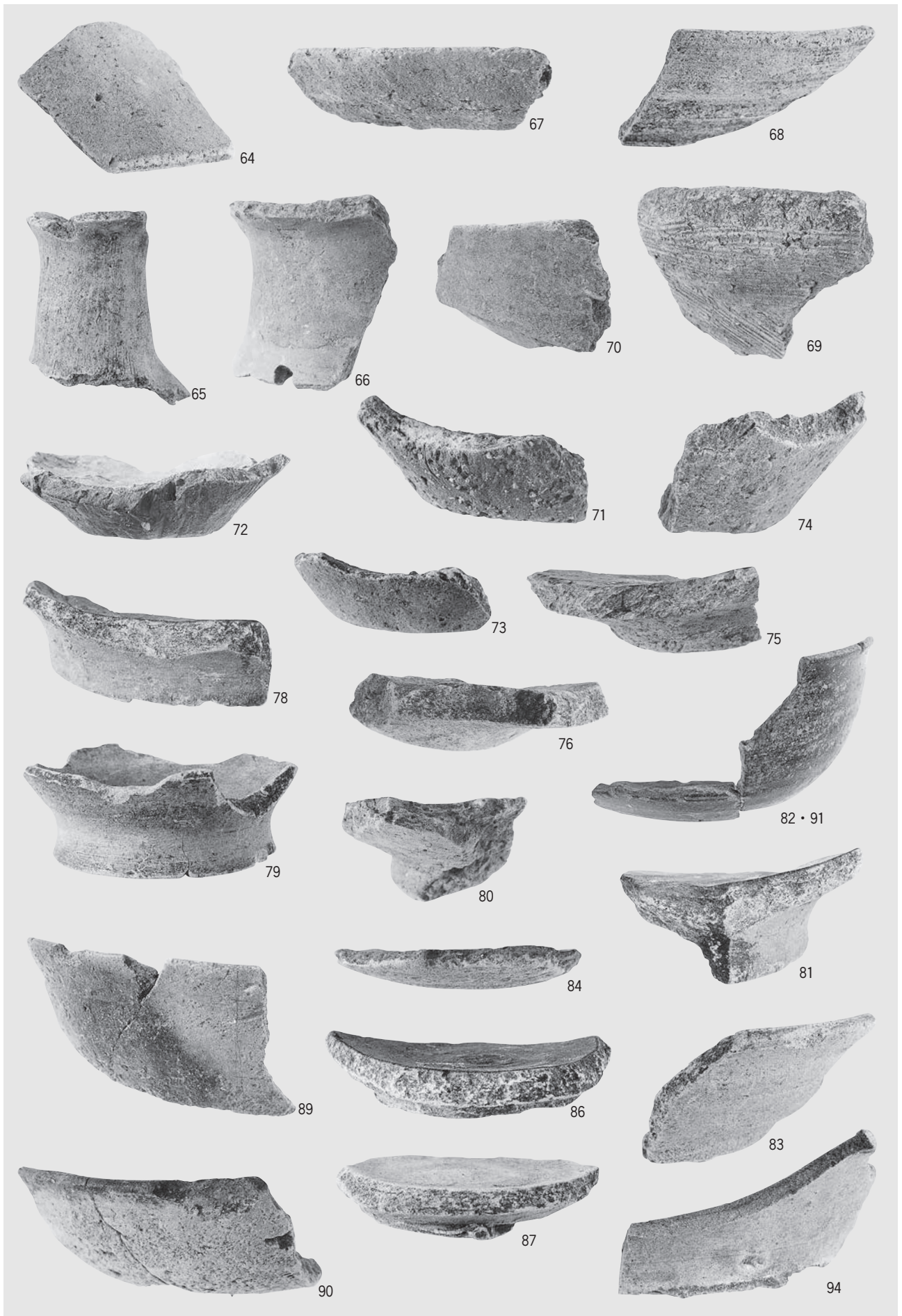


図版16 (出土遺物②)



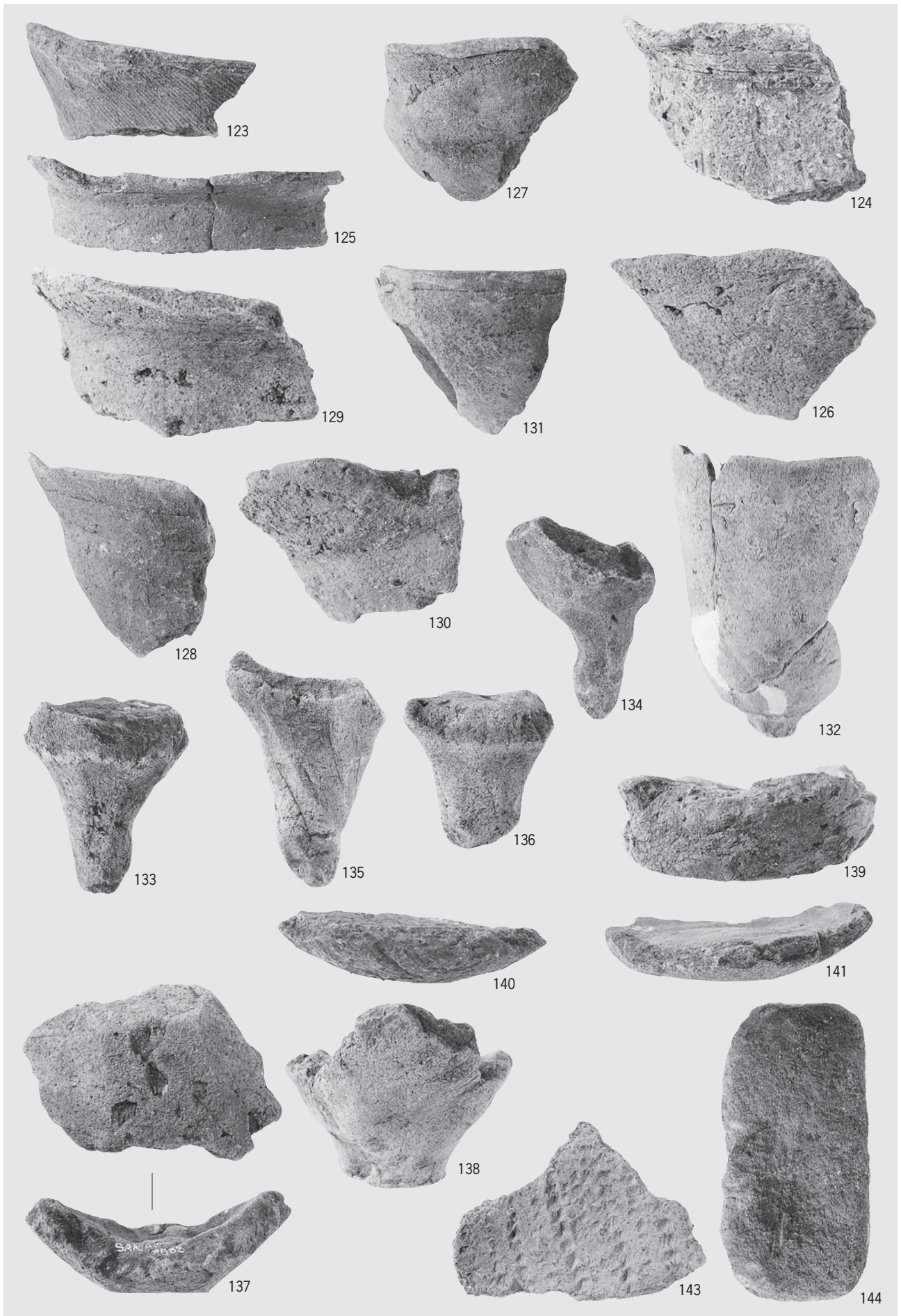


图版18 (出土遺物④)





図版20 (出土遺物⑥)



珠洲市 粟津カンジャバタケ遺跡

発行日 平成18年3月31日

発行者 石川県教育委員会

〒920-8575 石川県金沢市鞍月1丁目1番地
電話 076-225-1842 (文化財課)

財団法人石川県埋蔵文化財センター

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1
電話 076-229-4477

E-mail address mail@ishikawa-maibun.or.jp

印刷 株式会社ショセキ